

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4314545号
(P4314545)

(45) 発行日 平成21年8月19日 (2009. 8. 19)

(24) 登録日 平成21年5月29日 (2009. 5. 29)

(51) Int.Cl.

F 1

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

A 6 3 F 7/02 3 1 2 A

A 6 3 F 7/02 3 1 0 C

A 6 3 F 7/02 3 2 6 C

請求項の数 1 (全 31 頁)

(21) 出願番号 特願2000-45211 (P2000-45211)
 (22) 出願日 平成12年2月22日 (2000. 2. 22)
 (65) 公開番号 特開2001-231939 (P2001-231939A)
 (43) 公開日 平成13年8月28日 (2001. 8. 28)
 審査請求日 平成19年2月21日 (2007. 2. 21)

(73) 特許権者 000144522
 株式会社三洋物産
 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番2 1
 号
 (74) 代理人 100121821
 弁理士 山田 強
 (74) 代理人 100111095
 弁理士 川口 光男
 (72) 発明者 中村 誠
 愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番2 1
 号 株式会社 三洋物産 内
 審査官 納口 慶太

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パチンコ遊技機

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

開閉枠に遊技盤を取り付けたパチンコ遊技機において、
内レール及び外レールを遊技盤面の前方に配置し、
前記内レール及び外レールによって囲まれた領域によって遊技領域を構成し、かつ前記
内レール及び外レールが並行する部分によって発射装置から発射された遊技球を遊技領域
の上部へ誘導する誘導レールを構成し、
前記内レールには、その下端部を前記遊技盤の下端縁よりも下方に突出させて突出部を
形成し、
前記遊技盤の下端縁と前記突出部とに囲まれた領域によって、前記遊技領域の下端部に
至った遊技球を遊技領域から排出するアウト口を形成したことを特徴とするパチンコ遊技
機。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、パチンコ遊技機に関する。

【0002】

【従来の技術】

一般に、パチンコ遊技機は、長方形の遊技盤の表面に外レールと内レールとによりほぼ
 円形状の遊技領域を形成し、遊技領域内に入賞口や表示装置などの各種遊技機器を配置し

たものとなっている。また、パチンコ遊技機は、遊技場でのパチンコ遊技機の台交換の際の便宜等のため、全体の高さ及び幅は製造者の相違にかかわらず、ほぼ一定となっている。かかる現状においては、開閉扉枠等のパチンコ遊技機特有の構造からして、パチンコ遊技機の遊技領域も、製造者の相違にかかわらず、直径 380 mm 程度の円形に固定されていた。

【0003】

そして、近年のパチンコ遊技機の遊技内容の複雑化に伴い、製造者側では、上記のように直径 380 mm 程度の円形となる限られた遊技領域内でいかにして遊技の興趣を高めつつ各種遊技機器や釘等を配置するかが関心事となっている。

【0004】

10

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、限られた遊技領域内での各種遊技機器等の配置には自ずと限界があり、結局のところ遊技者にとってはどのパチンコ遊技機をみても劇的な変化を感じることはなくなってきており、実際の遊技でも遊技領域の遊技球の挙動よりも、表示内容に頼らざるを得ない現状となってきている。

【0005】

本発明は、以上の事情に鑑みてなされたものであり、遊技領域の大きさに関してこれまでの固定観念を覆し、より興味深い遊技を実現することが可能となるパチンコ遊技機を提供することを目的とする。

【0006】

20

【課題を解決するための手段】

以下、上記目的等を解決するのに適した各手段につき、必要に応じて作用効果等を付記しつつ説明する。

【0007】

1. 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技領域へ遊技球を導く誘導レールの少なくとも一部を遊技盤表面からはみ出して形成したことを特徴とするパチンコ遊技機。

【0008】

手段 1 によれば、遊技領域へ遊技球を導く誘導レールの少なくとも一部が遊技盤表面からはみ出すようにして形成されているので、従来のように遊技盤面に誘導レール全てを形成した場合に比べ、遊技領域の拡大を図ることができる。

30

【0009】

尚、遊技領域とは、パチンコ遊技機の正面から見て、レール（例えば内レール及び外レール）によって囲まれる領域のうち、誘導レールの領域及びアウト口の領域を除いた領域である。

【0010】

2. 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技領域へ遊技球を導く誘導レールの少なくとも一部を遊技盤表面からはみ出して形成し、その誘導レールを前枠に設けたことを特徴とするパチンコ遊技機。

40

【0011】

手段 2 によれば、誘導レールの少なくとも一部が遊技盤表面からはみ出す程度に大きく形成されていても、誘導レールを前枠に形成することにより遊技盤面に拘束されずに誘導レールを設けることができるので、従来のように遊技盤面に誘導レール全てを形成した場合に比べ、遊技領域の拡大を図ることができる。

【0012】

かかる手段 2 においては、前枠を合成樹脂によって形成し、前枠の窓孔によって遊技領域の外延を画定し、前記誘導レールを一体に形成する構成とすることが好ましい。このように構成すれば、誘導レールも合成樹脂によって容易に一体形成でき、遊技領域の画定も容

50

易になるばかりか、遊技盤自体に誘導レールを構成する内レールや外レール等を打ち付ける必要がなくなる利点がある。また、これに付随して遊技盤のみの交換にも容易に対応できる利点がある。

【 0 0 1 3 】

3．外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技球を導く誘導レールの先端側からアウト口に至る領域を遊技領域とし、該遊技領域の少なくとも一部を遊技盤表面からはみ出して形成したことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 1 4 】

手段3によれば、遊技領域の一部が遊技盤面からはみ出すようにして形成されているので、従来のように遊技盤面の大きさに左右されることなく、遊技領域を画定することが可能となつて、遊技領域の拡大を図ることができる。

【 0 0 1 5 】

4．遊技盤の前面側に所定の遊技領域を形成し、該遊技領域内に1又は複数の遊技機器を有するパチンコ遊技機において、遊技領域を外れた箇所にアウト口を設けたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 1 6 】

手段4によれば、アウト口を遊技領域から外れた箇所に設けたことにより、遊技領域がアウト口の分だけ狭くなるという従来の不都合を解消し、遊技領域を広く使用することが可能となる。なお、かかる手段4と上記手段1乃至手段3のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 1 7 】

5．遊技盤の前面側に所定の遊技領域を形成し、該遊技領域内に1又は複数の遊技機器を有するパチンコ遊技機において、遊技領域を略円形状に形成し、遊技領域の最下縁を含む遊技領域外にアウト口を設けたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 1 8 】

手段5によれば、アウト口を略円形状の遊技領域から外れた下方位置に設けたことにより、遊技領域がアウト口の分だけ狭くなるという従来の不都合を解消し、遊技領域を広く使用することが可能となる。なお、かかる手段5と上記手段1乃至手段3のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 1 9 】

6．前枠に遊技盤を取り付け、遊技盤の前面側に所定の遊技領域を形成し、該遊技領域内に1又は複数の遊技機器を有するパチンコ遊技機において、遊技領域を遊技盤の下端位置まで延長し、遊技盤の下方にアウト口を設けて遊技領域の下部とアウト口とを連通させたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 2 0 】

手段6によれば、アウト口を遊技領域から外れた箇所に設けたことにより、遊技領域がアウト口の分だけ狭くなるという従来の不都合を解消し、遊技領域を広く使用することが可能となる。また、アウト口は遊技盤にルータ加工を施すことなく形成できるので、パチンコ遊技機の製造上の利点大きい。なお、かかる手段6と上記手段1乃至手段3のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 2 1 】

7．前枠に遊技盤を取り付け、遊技盤の前面側に所定の遊技領域を形成し、該遊技領域内に1又は複数の遊技機器を有するパチンコ遊技機において、前記前枠が遊技盤の前面側に遊技領域を画定する仕切を構成し、該仕切の下部が下方に開口されており、該開口をアウト口に連通させたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 2 2 】

手段7によれば、アウト口を直接遊技盤にルータ加工を施して貫通孔を形成することで制作するのではなく、遊技領域を画定する仕切の下部を下方に開口させてその開口をアウト口に連通させる構成としているので、アウト口の設計上の自由度が高まり、遊技領域拡大

10

20

30

40

50

の際に無理が生じにくくなる。なお、かかる手段 7 と上記手段 1 乃至手段 3 のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 2 3 】

8 . 前枠に遊技盤を取り付け、遊技盤の前面側に所定の遊技領域を形成し、該遊技領域内に 1 又は複数の遊技機器を有するパチンコ遊技機において、前記前枠が遊技盤の前面側に遊技領域を画定する仕切を有し、該仕切の下部が下方に開口されており、該開口を下方より覆う被覆片によって囲まれた領域をアウト口としたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 2 4 】

手段 8 によれば、アウト口を直接遊技盤にルータ加工を施して貫通孔を形成することで制作するのではなく、遊技領域を画定する仕切の下部を下方に開口させてその開口を下方より被覆片で覆ってアウト口とする構成としているので、アウト口の設計上の自由度が高まり、遊技領域拡大の際に無理が生じにくくなる。なお、かかる手段 8 と上記手段 1 乃至手段 3 のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 2 5 】

9 . 前記被覆片は前記仕切と一体形成されたものであることを特徴とする手段 8 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 2 6 】

手段 9 によれば、仕切と被覆片とが一体形成されることから、これらを前枠の制作時に一括して形成することができ、製造上の利点が高まる。

【 0 0 2 7 】

1 0 . 前記被覆片の下面は手前側から奥側へ向けて傾斜しており、前記開口より落下する遊技球を奥側へ案内することを特徴とする手段 8 又は 9 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 2 8 】

手段 1 0 によれば、アウト口を構成する被覆片が上面で遊技球を受けた後、同遊技球を円滑にアウト口から排出することができ、球詰まりを確実に防止することができる利点がある。

【 0 0 2 9 】

1 1 . 遊技領域を遊技盤の下端位置まで延長し、遊技盤の下方にアウト口が配置されるように、前記開口が形成されていることを特徴とする手段 7 乃至 1 0 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 3 0 】

手段 1 1 によれば、遊技領域を遊技盤の下端位置まで延長することで遊技領域の拡大を図ると同時に、アウト口は遊技盤面より下方に配置されることとなることからアウト口のためのルータ加工を遊技盤に施す必要がなくなる。

【 0 0 3 1 】

1 2 . 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技盤の前面側には遊技領域が形成されており、該遊技領域へ遊技球を誘導する誘導レールを外レール及び内レールから構成し、更に、前記ガラス扉枠のうち縦の部分を、遊技機正面からみて前記誘導レールに重複する程度に形成したことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 3 2 】

手段 1 2 によれば、誘導レールと重複する程度にまでガラス扉枠の縦の部分を配置するようにしたことで、たとえ遊技領域が拡大されてもガラス扉枠の縦の部分を十分な太さに形成することができ、非常に重いガラスを支持するに十分な強度をガラス扉枠に持たせることができる。また、誘導レールの側方部分は遊技球を遊技領域へ導くための案内に過ぎないので、たとえガラス扉枠と重複していても遊技に支障はない。なお、かかる手段 1 2 と上記手段 1 乃至手段 1 1 のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 3 3 】

1 3 . 前記ガラス扉枠のうち縦の部分を、遊技機正面からみて前記誘導レールの内レールに差し掛かる程度まで重複するように形成したことを特徴とする手段 1 2 記載のパチンコ

10

20

30

40

50

遊技機。

【 0 0 3 4 】

手段 1 3 によれば、内ルールにまで差し掛かる程度にガラス扉枠の縦の部分が重複するように構成することで、遊技領域拡大とガラス扉枠の強度確保という相反する目的を同時に達成することができる。

【 0 0 3 5 】

1 4 . 前記ガラス扉枠を合成樹脂により形成したことを特徴とする手段 1 2 又は 1 3 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 3 6 】

手段 1 4 によれば、ガラス扉枠を合成樹脂によって構成することで、ガラス扉枠の形状の自由度が高まり、例えばガラス扉枠にランプ等の表示手段を設けたり、ガラス扉枠に上皿を一体に設けるといった斬新な構成を採用することが可能となる。

【 0 0 3 7 】

1 5 . 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技盤の前面側には遊技領域が形成されており、前記ガラス扉枠に取り付けられるガラスは、遊技機正面からみて前記遊技領域外延より内側に配置される部分が存在する程度に小さく形成されていることを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 3 8 】

手段 1 5 によれば、ガラスの大きさを遊技領域外延より内側に配置される部分が存在する程度に小さく形成することで、ガラス扉枠にかかる重量を低減することができる。また、「ガラスが遊技領域外延より内側に配置される部分が存在する」構成に代え、「ガラスが遊技領域へ遊技球を導く誘導レールの前面側を一部のみ被覆する」構成としてもよく、この場合、誘導レールを見ることができなくても遊技の中心は遊技領域で行われることから、実際の遊技には支障がない。なお、かかる手段 1 5 と上記手段 1 乃至手段 1 4 のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 3 9 】

1 6 . 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、前記ガラス扉枠に取り付けられるガラスは、発射された遊技球を遊技領域へ誘導する誘導レールの前面側を一部のみ被覆し、被覆されていない箇所は別のカバー部材によって誘導レールからの遊技球の脱落を防止したことを特徴とするパチンコ遊技機。

【 0 0 4 0 】

手段 1 6 によれば、ガラスが誘導レールの全部を被覆するものではないことからガラスを小さくすることができてその重量を低減でき、ガラス扉枠の強度上の問題、特に遊技領域拡大により縦の部分が細くなることに伴う強度低下の問題を解消し得る。また、誘導レールを通過する遊技球を遊技者が見ることができなくても遊技には支障がないが、上記のとおり誘導レールの少なくとも一部にガラスが存在しないことでそこから遊技球が脱落するおそれがある。しかし、本手段 1 6 ではカバー部材が設けられているので、誘導レールからの遊技球の脱落を防止することができる。なお、かかる手段 1 6 と上記手段 1 乃至手段 1 4 のいずれかとを組み合わせることも可能である。

【 0 0 4 1 】

1 7 . 前記カバー部材はガラス扉枠に設けられ、ガラス扉枠の閉鎖状態時において遊技球の脱落防止機能を果たすことを特徴とする手段 1 6 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 4 2 】

手段 1 7 によれば、ガラス扉枠にカバー部材が設けられていることから、ガラス扉枠の開放時にはカバー部材も追従するため、誘導レール手前側がカバー部材に邪魔されることなく開放され、誘導レールの清掃等の邪魔にはならない。

【 0 0 4 3 】

1 8 . 前記カバー部材は、ガラス扉枠に固定され且つガラス周縁を支持するガラス支持用

10

20

30

40

50

枠部に付設されていることを特徴とする手段 17 記載のパチンコ遊技機。

【0044】

手段 18 によれば、ガラス扉枠のガラス支持用枠部にカバー部材を付設することで、ガラス支持用枠部の製作に付随してカバー部材を製作することができる。しかも、ガラスの周縁部にカバー部材を容易に配置できる位置関係となるので、誘導レールのカバーに適している。

【0045】

19. 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、前記ガラス扉枠には遊技球を球発射装置へ導く前に一旦貯留される球受皿を一体に取り付けたことを特徴とするパチンコ遊技機。

10

【0046】

手段 19 によれば、遊技領域拡大に伴ってガラス扉枠の強度が低下するおそれがあるが、これと一体に球受皿を設けたことにより、かかる球受皿の部分によってガラス扉枠の下側の強度を高めることができる。なお、従来のようにガラス扉枠と球受皿とを分離した構成とした場合にはそれぞれの強度維持のために横方向に補強フレームを設ける必要等によって遊技領域の拡大が困難である。以上により、遊技領域拡大を図りつつガラス扉枠に十分な強度をもたせることができる利点がある。

【0047】

20. 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技球を球発射装置へ導く前に一旦貯留される球受皿を遊技機の前面下部に設け、該球受皿の球受面が遊技機下端より 270 mm 以下となる範囲に配置されるように構成したことを特徴とするパチンコ遊技機。

20

【0048】

手段 20 によれば、球受皿を、その球受面が遊技機下端より 270 mm 以下となる位置に配置したことから、従来のように球受面が下端より 300 mm 程度も高い位置に配置されていた場合に比べて遊技領域を拡大し易くなる利点がある。なお、かかる手段 20 は、手段 19 と組合せることにより一層容易に達成することができる。

【0049】

21. 前記球受皿の球受面が遊技機下端より 260 mm 以下、250 mm 以下、240 mm、230 mm、220 mm、210 mm 又は 200 mm 以下となる範囲に配置されるように構成したことを特徴とする手段 20 記載のパチンコ遊技機。手段 21 によれば、球受面の遊技機下端からの距離が以上のように小さくなる程、上記手段 20 の効果が一層顕著となる。なお、200 mm 未満とする場合には前記球受皿の下方に別の球受皿（所謂下皿）を設けることが困難となるため、所謂下皿を設ける場合には下限値は 200 mm となる。勿論、所謂下皿を省略して構成すれば 200 mm 以下の設定が可能である。

30

【0050】

22. 外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、遊技球を球発射装置へ導く前に一旦貯留される球受皿を遊技機の前面下部に設け、該球受皿に遊技球が払い出される球払出通路を、前記遊技盤の下方に設けたことを特徴とするパチンコ遊技機。

40

【0051】

手段 22 によれば、遊技盤の下方に球払出通路を設けることで、遊技盤に球払出通路のための貫通孔や切欠をルータ加工により形成する必要がなくなり、その加工の手間がなくなるばかりか、遊技盤面の下部領域を遊技領域のために用いることが可能となって遊技領域拡大に寄与する。

【0052】

23. 前記球払出通路は、前枠に形成された第 1 通路と、ガラス扉枠に形成されて第 1 通路から遊技球を球受皿へ導く第 2 通路とから構成したことを特徴とする手段 22 記載のパ

50

チンコ遊技機。

【 0 0 5 3 】

手段 2 3 によれば、球払出通路を前枠側の第 1 通路とガラス扉枠側の第 2 通路とから構成したことで、通路設計が容易になる。

【 0 0 5 4 】

2 4 . 前記ガラス扉枠の下方位置には前記球受皿とは別に下球受皿を設け、前記ガラス扉枠の開放時には第 1 通路と第 2 通路との連通状態が解除されて第 1 通路から前記下球受皿へ遊技球が導かれるように構成したことを特徴とする手段 2 3 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 5 5 】

手段 2 4 によれば、ガラス扉枠を開放して第 1 通路と第 2 通路との連通状態が解除されると球受皿に遊技球が払い出されることがないが、第 1 通路を流通する遊技球は当該第 1 通路から直接下球受皿へ導かれるので、ガラス扉枠の開閉にかかわらず遊技球の払出が円滑に行われる。従って、ガラス扉枠に球受皿を一体に設けたことによる払出球の取扱上の難点を簡易な構成によって解消することができる。その結果、遊技領域を容易に拡大することができる。

10

【 0 0 5 6 】

2 5 . 前記ガラス扉枠の下方位置には前記球受皿とは別に下球受皿を設け、前記第 1 通路は下球受皿に連通する通路であり、第 1 通路にはガラス扉枠の閉鎖時に前記第 2 通路が入り込むための開口を設けたことを特徴とする手段 2 3 記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 5 7 】

20

手段 2 5 によれば、ガラス扉枠を開放した状態では遊技球は第 1 通路から直接下球受皿に払い出される一方、ガラス扉枠を閉鎖した状態では遊技球は第 1 通路から第 2 通路を介して球受皿へ払い出される。従って、ガラス扉枠に球受皿を一体に設けたことによる払出球の取扱上の難点を簡易な構成によって解消することができる。その結果、遊技領域を容易に拡大することができる。

【 0 0 5 8 】

なお、以上の手段 1 9 乃至手段 2 5 の各手段を、手段 1 乃至手段 1 8 のいずれかの手段と組合せることで、遊技領域拡大に一層寄与することとなる。

【 0 0 5 9 】

2 6 . 遊技領域の幅を少なくとも 3 8 0 mm 以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 2 5 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

30

【 0 0 6 0 】

手段 2 6 によれば、遊技領域の幅が従来のパチンコ遊技機よりも広い 3 8 0 mm 以上とされていることから、遊技領域に配置される遊技機器の設置上の自由度が高まるとともに比較的大きな遊技機器や多数の遊技機器の配置も容易に行うことができる。

【 0 0 6 1 】

2 7 . 前記幅を 3 9 0 mm 以上、4 0 0 mm 以上、4 1 0 mm 以上、4 2 0 mm 以上、4 3 0 mm 以上、4 4 0 mm 以上、4 5 0 mm 以上、4 6 0 mm 以上、又は 4 7 0 mm 以上としたことを特徴とする手段 2 6 記載のパチンコ遊技機。手段 2 7 によれば、最低値が大きくなる程、手段 2 6 の効果が一層顕著なものとなる。

40

【 0 0 6 2 】

2 8 . 遊技領域の高さを少なくとも 4 0 0 mm 以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 2 7 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 6 3 】

手段 2 8 によれば、遊技領域の高さが従来のパチンコ遊技機よりも広い 4 0 0 mm 以上とされていることから、遊技領域に配置される遊技機器の設置上の自由度が高まるとともに比較的大きな遊技機器や多数の遊技機器の配置も容易に行うことができる。

【 0 0 6 4 】

2 9 . 前記高さを 4 1 0 mm 以上、4 2 0 mm 以上、4 3 0 mm 以上、4 4 0 mm 以上、4 5 0 mm 以上、4 6 0 mm 以上、4 7 0 mm 以上、4 8 0 mm 以上、又は 4 9 0 mm 以

50

上としたことを特徴とする手段 28 記載のパチンコ遊技機。手段 29 によれば、最低値が大きくなる程、手段 28 の効果が一層顕著なものとなる。

【0065】

なお、前記手段 26, 27 に特定される幅と手段 28, 29 に特定される高さとを任意に組合せてもよい。具体的には、幅 380 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 390 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 400 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 410 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 420 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 430 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 440 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 450 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 460 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。また、幅 470 mm 以上に対して、高さを 400 mm 以上、410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、又は 490 mm 以上としてもよい。

【0066】

30. 遊技領域の幅及び高さを少なくとも 400 mm 以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 25 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【0067】

手段 30 によれば、遊技領域の幅及び高さが従来のパチンコ遊技機よりも広い 400 mm 以上とされていることから、遊技領域に配される遊技機器の設置上の自由度が高まるとともに比較的大きな遊技機器や多数の遊技機器の配置も容易に行うことができる。特に、幅及び高さの両方について従来の固定観念を覆して広くしていることで、ダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。

【0068】

31. 前記幅及び高さを 410 mm 以上、420 mm 以上、430 mm 以上、440 mm 以上、450 mm 以上、460 mm 以上、470 mm 以上、480 mm 以上、490 mm 以上としたことを特徴とする手段 30 記載のパチンコ遊技機。手段 31 によれば、幅及び高さの最低値が大きくなる程、上記効果が一層顕著なものとなる。

【0069】

32. 遊技領域を略円形状に形成し、遊技領域が直径を少なくとも 380 mm 以上とする所定の円形領域を含む大きさとしたことを特徴とする手段 1 乃至 25 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 7 0 】

手段 3 2 によれば、略円形状となる遊技領域を、直径 3 8 0 m m 以上となる所定の円形領域を含む、従来のパチンコ遊技機よりも広い領域とされていることから、遊技領域に配される遊技機器の設置上の自由度が高まるとともに比較的大きな遊技機器や多数の遊技機器の配置も容易に行うことができる。特に、遊技領域を構成する略円形領域については上下左右のすべての方向について従来の固定観念を覆して広くしていることで、ダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。

【 0 0 7 1 】

3 3 . 前記直径を 3 9 0 m m 以上、4 0 0 m m 以上、4 1 0 m m 以上、4 2 0 m m 以上、4 3 0 m m 以上、4 4 0 m m 以上、4 5 0 m m 以上、4 6 0 m m 以上、又は 4 7 0 m m 以上としたことを特徴とする手段 3 2 記載のパチンコ遊技機。手段 3 3 によれば、最低値が大きくなる程、手段 3 2 の効果が一層顕著なものとなる。

10

【 0 0 7 2 】

3 4 . 前記遊技盤の表面積に対する遊技領域の面積の比率を 6 0 パーセント以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 3 3 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 7 3 】

手段 3 4 によれば、遊技盤との対比において遊技領域が 6 0 パーセント以上という広い占有面積を有することで、例えば遊技盤として既存のものを利用した場合であっても、十分に大きな遊技領域を確保することができる。これによりダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。ちなみに、従来は上記した比率はおよそ 5 0 パーセント程度に過ぎず、遊技盤面の有効利用は十分に図られておらず、遊技領域もその分小さくならざるをえなかった。

20

【 0 0 7 4 】

3 5 . 前記遊技盤の表面積に対する遊技領域の面積の比率を 6 5 パーセント以上、7 0 パーセント以上、7 5 パーセント以上又は 8 0 パーセント以上としたことを特徴とする手段 3 4 記載のパチンコ遊技機。手段 3 5 によれば、比率の最低値が大きくなる程、手段 3 4 の効果が一層顕著なものとなる。

【 0 0 7 5 】

3 6 . 前記遊技領域の一部は遊技盤面を越えて形成されており、遊技盤の表面積に対する遊技領域の面積の比率を 6 0 パーセント以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 3 3 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

30

【 0 0 7 6 】

手段 3 6 によれば、遊技盤との対比において遊技領域が 6 0 パーセント以上という広い占有面積を有することで、例えば遊技盤として既存のものを利用した場合であっても、十分に大きな遊技領域を確保することができる。これによりダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。特に、遊技領域の十分な大きさを確保すべく遊技領域の一部が遊技盤面を越えて形成されており、これにより上記した比率の実現に寄与することとなっている。ちなみに、従来は上記した比率はおよそ 5 0 パーセント程度に過ぎず、遊技盤面の有効利用は十分に図られておらず、遊技領域もその分小さくならざるをえなかった。

40

【 0 0 7 7 】

3 7 . 前記遊技盤の表面積に対する遊技領域の面積の比率を 6 5 パーセント以上、7 0 パーセント以上、7 5 パーセント以上又は 8 0 パーセント以上としたことを特徴とする手段 3 6 記載のパチンコ遊技機。手段 3 7 によれば、比率の最低値が大きくなる程、手段 3 6 の効果が一層顕著なものとなる。

【 0 0 7 8 】

3 8 . パチンコ遊技機全体の正面側の面積に対する遊技領域の面積を 3 5 パーセント以上としたことを特徴とする手段 1 乃至 3 7 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 0 7 9 】

手段 3 8 によれば、パチンコ遊技機全体の正面側の面積との対比において遊技領域の面積の比率が 3 5 パーセント以上という広い占有面積を有することで、例えば遊技盤として既

50

存のものを利用した場合であっても、十分に大きな遊技領域を確保することができる。これによりダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。ちなみに、従来は上記した比率はおよそ28パーセント程度に過ぎず、遊技盤面の有効利用は十分に図られておらず、遊技領域もその分小さくならざるをえなかった。

【0080】

39．前記パチンコ遊技機の正面側の面積に対する遊技領域の面積を40パーセント以上、45パーセント以上、又は50パーセント以上としたことを特徴とする手段38記載のパチンコ遊技機。手段39によれば、比率の最低値が大きくなる程、手段38の効果が一層顕著なものとなる。

【0081】

40．遊技領域の上端位置と外枠上端位置との高さ方向の距離を80mm以下としたことを特徴とする手段1乃至39のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【0082】

手段40によれば、遊技領域の上端位置と外枠上端位置との間の距離を80mm以下としているので、遊技領域を十分に上部にまで広げることができる。これにより、遊技領域の大きさを従来よりも大きくした場合において、天釘位置を従来の位置よりも上方に配置することができ、結果としてその下方に設けられる可変表示装置等の遊技機器を遊技者に違和感のないように配置することが可能となる。また、遊技領域を拡大した場合に上記のように遊技領域の上端位置と外枠上端位置との高さ方向の距離を80mm以下と比較的小さく設定することによって、遊技領域が異常に下方に配置されることを防止できる。

【0083】

41．前記距離を70mm以下、60mm以下、又は50mm以下としたことを特徴とする手段40記載のパチンコ遊技機。手段41によれば、距離の最低値が小さくなる程、前記手段40の効果が一層顕著なものとなる。

【0084】

42．遊技領域の左端位置と外枠左端位置との幅方向の距離を50mm以下としたことを特徴とする手段1乃至41のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【0085】

手段42によれば、遊技領域の左端位置と外枠左端位置との間の距離を50mm以下としているので、遊技領域を十分に上部にまで広げることができる。

【0086】

43．前記距離を40mm以下、30mm以下、又は20mm以下としたことを特徴とする手段42記載のパチンコ遊技機。手段43によれば、距離の最低値が小さくなる程、前記手段42の効果が一層顕著なものとなる。なお、誘導レールを遊技領域の左側に配置する場合には、誘導レールの配置設計上、前記距離は30mmが最低値となり、従って例えば40mm以下で30mm以上の範囲となったり、手段42の場合にあっては、50mm以下で30mm以上の範囲となる。

【0087】

44．遊技領域の右端位置と外枠右端位置との幅方向の距離を50mm以下としたことを特徴とするパチンコ遊技機。

【0088】

手段44によれば、遊技領域の右端位置と外枠右端位置との間の距離を50mm以下としているので、遊技領域を十分に上部にまで広げることができる。

【0089】

なお、前記手段26、28、30、32、34、36、38、40、42又は44に関しては、いずれも他の手段の従属形式としているが、それらを独立の手段とし、「外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、前枠の前面側にはガラス扉枠を開閉自在に取り付けたパチンコ遊技機において、」という前提要件、又は「外枠に対し前枠を開閉自在に取り付け、前枠の後側には遊技盤を取り付け、該遊技盤の前面側に遊技領域を設けたパチンコ遊技機において、」という前提要件を加えて各手段を捉えて

10

20

30

40

50

もよい。

【0090】

45．前記距離を40mm以下、30mm以下、又は20mm以下としたことを特徴とする手段44記載のパチンコ遊技機。手段45によれば、距離の最低値が小さくなる程、前記手段44の効果が一層顕著なものとなる。なお、誘導レールを遊技領域の右側に配置する場合には、誘導レールの配置設計上、前記距離は30mmが最低値となり、従って例えば40mm以下で30mm以上の範囲となったり、手段44の場合にあっては、50mm以下で30mm以上の範囲となる。

【0091】

46．前記遊技領域は、外枠の内周側範囲内に遊技領域全体が誘導レールとともに入り込み得る大きさを限界値としたことを特徴とする手段1乃至45のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

10

【0092】

手段46によれば、外枠によってパチンコ遊技機の外形の大きさが画定される。従って、以上の各手段において説明した数値の上限に関しては、前記遊技領域の幅の最大値は外枠の内側幅から誘導レール占有分を差し引いた幅以内とすることを要し、また、前記遊技領域の高さの最大値は外枠の内側高さ以内とすることを要し、さらに、前記遊技領域の半径の最大値は外枠の内側幅又は内側高さのうち短い方の長さ以内とすることを要する。即ち、遊技領域の大きさを特定する場合、その限界として外枠の内周側範囲内に遊技領域及び誘導レールが入り込み得る大きさとなっている必要がある。なお、人間工学的見地からは、以上の各手段において説明した数値の上限に関しては、遊技領域の幅の最大値は、700mm以内が望ましく、650mm以内がより望ましく、600mm以内がさらに望ましい。また、550mm以下でもよい。さらに、遊技領域の高さは650mm以内が望ましく、600mm以内がより望ましい。また、550mm以内としてもよい。

20

【0093】

47．前記前枠は合成樹脂により一体形成されており、該前枠に直接遊技盤が取り付けられていることを特徴とする手段46記載のパチンコ遊技機。

【0094】

手段47によれば、従来一般に木製であった前枠を合成樹脂によって構成したことで、前枠の形状の自由度が増し、中枠を利用することなく直接前枠に遊技機を取り付けることができる。

30

【0095】

48．前記前枠には窓孔が形成され、該窓孔によって遊技盤の露出された領域の全部又は一部を遊技領域としたことを特徴とする手段46又は47記載のパチンコ遊技機。

【0096】

手段48によれば、例えば従来のように遊技盤面に内外の誘導レールをプレスして遊技領域を構成する必要がなくなり、遊技盤だけを交換するというのも容易に実現でき、枠側の構成の再利用が促進される。特に、手段47のように前枠を合成樹脂とすることで、形状の自由度の高さによって、手段48の実現が容易になる利点がある。

【0097】

40

49．前記前枠を閉状態に維持するロック機構を内蔵し、かつ、ロック解除のための解除キーを遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置したことを特徴とする手段1乃至48のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【0098】

手段49によれば、ロック機構や、解除キーをパチンコ遊技機に配置する際に、解除キーを遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置したので、解除キーの存在により遊技領域の拡大が阻害されることを防止することができる。

【0099】

50．前記前枠より前側にて開閉自在に取り付けられたガラス扉枠を閉状態に維持するロック機構を内蔵し、ロック解除のための解除キーを前記前枠のための解除キーと兼用した

50

ことを特徴とする手段 4 9 記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 0 0 】

手段 5 0 によれば、前枠用の解除キーとガラス扉枠用の解除キーとが兼用されているので、両機能を兼ねた解除キーを遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置することで、容易に遊技領域の拡大を促進することができる。

【 0 1 0 1 】

5 1 . 前記解除キーを前枠（又はガラス扉枠）の略上角部又は略下角部に配置したことを特徴とする手段 4 9 又は 5 0 記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 0 2 】

手段 5 1 によれば、遊技領域が例えば略円形といった一般的な形状をなしている場合においては、ガラス扉枠等の略上角部及び略下角部には比較的余裕があるため、ここに解除キーを配置することで、解除キーを無理なく配置しつつ遊技領域を拡大することができる。なお、この場合、略上角部には遊技の興趣を高めたり所定の報知を行うためのランプ等が配置されることが多いこと、及び解除キーを上部に配置することは外観上好ましくないこと等を考慮すると、略下角部に解除キーを配置することが最も好ましい。

【 0 1 0 3 】

5 2 . 遊技領域内に有する遊技機器の一つとして可変表示装置を設けたことを特徴とする手段 1 乃至 5 1 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 0 4 】

手段 5 2 によれば、可変表示装置を設けることで、遊技球の挙動のみに頼った遊技とならず表示の変化も楽しませることが出来るため、遊技に変化を与えることができる。

【 0 1 0 5 】

5 3 . 前記可変表示装置は遊技領域の中間位置に配置され、遊技領域には可変表示装置の全周囲に遊技球が通過し得る領域が残されていることを特徴とする手段 5 2 記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 0 6 】

手段 5 3 によれば、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置を遊技領域の中間位置に配置した場合においても、その可変表示装置によって遊技球の通過領域がなくなってしまうことがなく、無理に可変表示装置の上部から下部へ導く通路を当該可変表示装置に設ける必要がなくなる。

【 0 1 0 7 】

5 4 . 前記遊技領域内における可変表示装置の左右両側又は左右一方は、遊技球の移動経路（落下経路）が一義的に規制されることなく所定の遊びをもって通過可能な幅を有することを特徴とする手段 5 3 記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 0 8 】

手段 5 4 によれば、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置を遊技領域の中間位置に配置した場合においても、その可変表示装置の側方での遊技球の移動（落下）に関して自由な挙動が発生し、遊技球を用いたパチンコ遊技機の本来の面白みをなくしてしまうおそれがない。また、無理に可変表示装置の上部から下部へ導く通路を当該可変表示装置に設ける必要もなくなる。

【 0 1 0 9 】

5 5 . 前記遊技領域内における可変表示装置の左右両側又は左右一方には、1 又は複数の役物（入賞口や通過口や風車や可動部材や表示装置等）が配置されている手段 5 2 乃至 5 4 のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【 0 1 1 0 】

手段 5 5 によれば、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置が配置されていても、可変表示装置の側方に役物を配置することができ、大画面を用いたダイナミックな表示演出を実現しつつ、遊技球の挙動についても可変表示装置の下方での挙動の制限されず全体として大きな変化を与えることができる。

【 0 1 1 1 】

５６．前記遊技領域内における可変表示装置の左右両側又は左右一方には、１又は複数の役物（例えば入賞口や通過口や役物風車や可動部材や表示装置等）及び遊技球を誘導する誘導部材（三角釘や誘導釘や誘導通路や誘導風車等）がそれぞれ配置されている手段５２乃至５４のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【０１１２】

手段５６によれば、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置が配置されていても、可変表示装置の側方に役物及び誘導部材を配置することができ、大画面を用いたダイナミックな表示演出を実現しつつ、遊技球の挙動についても可変表示装置の下方での挙動の制限されず全体として大きな変化を与えることができる。

【０１１３】

５７．前記誘導部材は一側方につき複数設けられている手段５６記載のパチンコ遊技機。

【０１１４】

５８．前記誘導部材は、釘を複数配置することで形成され、かつ、それら釘が正面三角形状に配置構成されているものからなっている手段５７記載のパチンコ遊技機。なお、ここでいう釘は、金属製のものに限られず例えば樹脂よりなっているもよい。

【０１１５】

５９．前記役物は一側方につき複数設けられている手段５５又は５６記載のパチンコ遊技機。

【０１１６】

かかる手段５９によれば、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置が配置されていても、可変表示装置の側方に複数の役物を配置することができ、大画面を用いたダイナミックな表示演出を実現しつつ遊技球の挙動にも大きな変化を与えることができる。なお、複数の役物は単一の取付基板に設けられていてもよい。

【０１１７】

６０．前記可変表示装置は８インチ以上又はより好ましくは１０インチ以上の表示画面を有することを特徴とする手段５２乃至５９のいずれかに記載のパチンコ遊技機。

【０１１８】

手段６０によれば、遊技球の挙動を十分に確保するには従来の遊技領域の大きさではせいぜい７インチ画面の可変表示装置が限界であって、それ以上の大きさの可変表示装置を用いた場合には遊技球の挙動が非常に限られたものとなっていたため殆ど採用されていなかったが、遊技領域拡大に伴って８インチ以上の画面を有するものであれば余裕をもって遊技球の挙動に変化を与えるゲージ構成を実現でき、１０インチ以上の画面であっても十分に対応できる利点がある。

【０１１９】

【発明の実施の形態】

以下、パチンコ遊技機（以下、単に「パチンコ機」という）の一実施の形態を、図面に基づいて詳細に説明する。

【０１２０】

図１，２に示すように、パチンコ機１は、外枠２と、該外枠２の前部に設けられ外枠２の一側部にて開閉可能に支持された前面枠３とを備えている。外枠２は、板材により全体として矩形状に構成されている。尚、本実施の形態では、外枠２は木製である。本実施の形態において、外枠２の上下方向の長さは８０８ｍｍ、左右方向の長さは５２０ｍｍとなっている（従来と同等サイズ）。前枠としての前面枠３は合成樹脂、具体的にはポリカーボネート樹脂により構成されている。尚、外枠２は、パチンコ機１のベースとなる枠であり、前面枠３は、外枠２に対し、開閉可能に設けられたものである。また、前面枠３の開閉中心軸線はパチンコ機１の正面からみて左側に上下に延びるように設定されている。外枠２は樹脂により構成されていてもよく、あたかも外枠２及び前面枠３が一体のように見えるものでもよい。また、その前面枠３の前面側には、ガラス扉枠４が開閉自在に設けられている。ガラス扉枠４の左右方向の長さは、前面枠３とほぼ同等であり、該ガラス扉枠４によって前面枠３の下部を除くほとんどの部分が覆われるようになっている。

【 0 1 2 1 】

前記前面枠 3 の後側（ガラス扉枠 4 の奥、外枠 2 の内側）には、図 3 に示すような遊技盤 5 が着脱可能に装着されている。この遊技盤 5 の上下方向の長さは 476 mm、左右方向の長さは 451 mm となっている（従来と同等サイズ）。遊技盤 5 は、矩形状のベニヤよりなる板材に対し、セル板と称される C A B（セルロース - アセテート - ブチレート樹脂）樹脂製装飾プレートが貼着されることにより構成されている。なお、遊技盤 5 は合成樹脂によって構成されていてもよい。また、遊技盤 5 には、ルータ加工が施されることによって複数の開口部が形成されており、各開口部には、普通入賞チャッカー 6、可変入賞装置 7、作動チャッカー 8、可変表示装置 9、スルーチャッカー 10 等が配設されている。本実施の形態において、可変表示装置 9 は、10.4 インチサイズの大型の液晶表示部と、液晶表示部の周囲に配設されたセンターフレームと、液晶表示部における表示制御を実行するための表示制御基板とを備えている。

10

【 0 1 2 2 】

可変表示装置 9 の液晶表示部には、例えば左図柄列、中図柄列及び右図柄列の 3 つの表示列が表示される。各図柄列は複数の図柄によって構成されており、これら図柄が各図柄列毎にスクロールされるように表示画面に可変表示されるようになっている。即ち、可変表示装置 9 は識別情報を可変表示するように構成されている。また、可変入賞装置 7 は、通常、遊技球 B が入賞できない状態又は入賞し難い状態になっている。より詳しくは、作動チャッカー 8 に対し遊技球 B が入賞することに基づいて、可変表示装置 9 の液晶表示部の図柄が可変表示される。そして、確定された識別情報の組合せが予め設定した特定の識別情報の組合せとなったこと、ここでは停止した図柄が特定の組み合わせであることを必要条件に特別遊技状態が発生し、可変入賞装置 7 の大入賞口が所定の開放状態となり（具体的には所定時間、所定回数だけ開く）、遊技球 B が入賞しやすい状態（大当たり状態）になるよう構成されている。なお、周知のとおり、前記一般入賞口 6、可変入賞装置 7、作動口 8 に遊技球 B が入賞することに基づいて、後述する上受皿 54（場合によっては下受皿 53）に対し所定数の景品球が払い出されるようになっている。また、遊技盤 5 には、遊技球 B の落下方向を適宜分散、調整等するために多数の釘が植設されているとともに、風車等の各種部材（役物）が配設されている。前記釘等によって誘導部材が構成される。

20

【 0 1 2 3 】

図 2 に示すように、前記前面枠 3 は、外形が前記外枠 2 とほぼ同一形状をなす樹脂ベース 11 と、この樹脂ベース 11 の最内周側に位置し略円弧状をなすよう一体形成された内レール 12 と、主として図の左側の内レール 12 に対し所定間隔を隔てて前記樹脂ベース 11 に一体形成された外レール 13 とを備えている。これら内レール 12 及び外レール 13 は遊技球発射ハンドル 52 の回動操作に基づき発射装置から発射された遊技球を遊技盤 5 上部へ案内する発射路としての役割を主として果たすものである。従って、内レール 12 と外レール 13 とが並行する部分（向かって左側の部分）によって、誘導レールが構成されることとなる。なお、前記樹脂ベース 11 は、遊技盤 5 面と略平行な平面部としての板状部 14 と、板状部 14 を補強するべく板状部 14 の裏側（表側でもよい）に一体形成された格子状のリブ 15 とを備えている（図 4 参照）。このような構成は図 2 の F 部分も同様である。従って、かかる前面枠 3 の樹脂ベース 11 の裏面側に広い面積で前記遊技盤 5 がほぼ当接した状態で取着されていること、及び、その樹脂ベース 11 がリブ 15 で補強されていることから、遊技盤 5 は比較的広い面積で前面枠 3 にしっかりと支持されることとなり、結果的に反り等が発生しにくく、形状安定性が保持されやすいものとなっている。

30

40

【 0 1 2 4 】

前記内レール 12 の下端部は略 U 字状に突出しており、その突出部分は奥行き方向に開口している。この突出部分及びその近傍には、緩衝部材としての球受け部材 17 が取着されている。より詳しく説明すると、図 5、6 に示すように、球受け部材 17 は柔軟性及び弾性を有する合成樹脂、例えばポリエチレン樹脂によって構成され、略 U 字状に形成された導出部 18 とその両側に延びる案内部 19 とを有している。一方、前記内レール 12 の前

50

記突出部分及びその近傍には、係合部としての複数の（例えば５個の）係止孔２１が所定間隔毎に形成されている。また、これら係止孔２１に対応するようにして前記球受け部材１７の下部には正面略逆Ｔ字状の係止突起２２が一体形成されている。球受け部材１７は手前から差し込まれるが、係止突起２２は係止孔２１よりも若干大きめに形成されており、係止孔２１に係止突起２２が自身の弾性力に抗して嵌め込まれることにより弾性保持されるとともに、前記係止孔２１及び係止突起２２の係合関係によって位置ずれが防止されている。以上のように球受け部材１７の取付に際して、ビス等の別部材が不要であることから、部品点数や組立工数の低減は勿論、交換作業等も容易になる。

【０１２５】

球受け部材１７の両案内部１９は、内レール１２に則した円弧状をなし、その下面には複数のリブ２３が所定間隔毎に形成されている。これらリブ２３の存在によって、案内部１９が補強されるのはもちろんのこと、内レール１２及び案内部１９間に若干の隙間が形成され、案内部１９には自身の弾性力によるクッション性を大きく上回るクッション性が付与されることとなる。そのため、遊技球Ｂが案内部１９に当たった場合でも、そのクッション性によって衝撃力が吸収されることとなり、結果として内レール１２、ひいては前面枠３の損傷を極力防止することができる。なお、内レール１２の下部領域に球受け部材１７を設けた理由は、かかる部分に遊技球Ｂが高速で衝突する可能性があることから、その衝撃を緩和して当該部分の損傷を防止するためであって、これにより前面枠３の破損を防止し、パチンコ機１の長寿命化は勿論のこと、遊技盤５交換だけによる前面枠３の再利用をも可能とすることにある。

【０１２６】

また、導出部１８は、内レール１２の前記突出部分に対応して配設されており、前記内レール１２によって形成される円弧形状よりも下方に突出した状態で配置される。そして、遊技盤５の下部に落下した遊技球Ｂの多くは、案内部１９から導出部１８の方へと案内され、この導出部１８を通して図示しない球排出路の方へと案内されるようになっている。なお、導出部１８にも複数の補強用或いは遊技球Ｂの緩衝用のリブ２４が一体形成されている。

【０１２７】

前記遊技盤５と、導出部１８によって形成された開口部分と、さらにはガラス扉枠４の下部フレームとによっていわゆるアウト口２５が形成されている。従って、遊技盤にルータ加工を施すことによりアウト口を形成するようにしていた従来技術とは異なり、本実施の形態では、アウト口２５を形成するために遊技盤５に切削加工を施す必要がない。また、アウト口２５は、ガラス扉枠４の下部フレームによって覆われ、通常遊技中は視認することが困難な位置に設けられることとなる。従って、アウト口２５は、落下方向に開口されており、あたかも吸い込まれるかのように導出される。なお、突出部分及び導出部１８の下面は手前側から奥側へ向けて傾斜しており、落下する遊技球Ｂを奥側へ案内するようになっている。これにより、球詰まりを確実に防止することができるようになっている。また、球受け部材１７の前部は折り返し形状となっており、この折り返しの存在によって、ピン、針金等の先細り部材を用いた不正行為が抑制されるようになっている。また、前記玉受け部材１７は、導出部１８がガラス扉枠４の下部フレームに、それ以外の部分がガラス扉枠４に取り付けられるガラスに、押さえられ又はそれらが近接して配置されることから、上記のように単に球受け部材１７を手前側から嵌め込んだだけであるにもかかわらず、当該球受け部材１７の抜け落ちが防止される。

【０１２８】

一方、外レール１３のうち、遊技球Ｂの最大飛翔部分に対応する位置（図２の右上部：ここが外レール１３の先端部に相当する）には、返しゴム２６が装着されている。従って、所定以上の勢いで発射された遊技球Ｂは、返しゴム２６に当たって跳ね返されるようになっている。また、前記外レール１３の内側面には、遊技球Ｂの飛翔をより滑らかなものとするため、長尺状をなすステンレス製の金属帯としての摺動プレート２７が装着されている。すなわち、外レール１３の基端部近傍（遊技球Ｂ発射部分近傍）には、端部係止溝２

8が形成されている。また、外レール13には、図7(a)、(b)に示すように、その長手方向に沿って複数の係止突起31及び支持突起32が、外レール13の延びる方向、即ち周方向にみて、互いに重複することのないように、所定間隔を隔てて交互に形成されている。そして、摺動プレート27の基端部は前記端部係止溝28に嵌め込まれ、摺動プレート27の中間部分は、外レール13の内側面にほぼ当接するようにして支持突起32にて形成された溝部に嵌め込まれ、かつ、係止突起31にて係止されている。さらに、図2に示すように、摺動プレート27の先端部は、前記返しゴム26が外レール13に取着されるのに伴って、併せて固定されている。なお、上記例では係止突起31及び支持突起32を周方向にみて互いに重複することのないように形成する構成となっているが、これは前面枠3の成形に際し型抜きを円滑に行うためにこのような構成となっているだけであって、型抜きの問題が解消できれば、周方向にみて互いに重複していてもよい。また、係止突起31及び支持突起32を交互に配置したことで摺動プレート27を効果的に位置決めできるようにしたが、必ずしも交互に設ける必要はない。尚、前記係止突起31や支持突起32による取付に代えて、またはこれに加えて、摺動プレートを接着テープや接着剤等を用いて取着するようにしてもよい。また、摺動プレート27の幅方向ほぼ中央部のみを遊技球Bが通るとするならば、その両側部に係止機構を設けてもよい。例えば、摺動プレートの幅方向両側に係止爪をプレス加工し、該係止爪を外レール13に形成された係止穴に係止させることによって、摺動プレート17を取着する構成としてもよい。

【0129】

このような構成の下、前面枠3の内周側の窓孔によって主として遊技領域の外延が確定されており、前面枠3に対し遊技盤5が装着された状態にあつては、内レール12及び外レール13が遊技盤3に当接又は近接した状態となる。このため、あたかも従来と同様の(遊技盤に対し内レール及び外レールが取付けられたかのような)外観態様を呈することとなる。また、これにより、遊技盤5が別のものに交換されたとしても、内レール12及び外レール13等を含む前面枠3全体に関しては共用できるため、無駄な廃棄を防止でき、リサイクル性に優れたものとなる。同様に、摺動プレート27を前記係止突起31及び支持突起32等に引っかけているだけであるため、摺動プレート27の取り外しや交換も容易であり、材質毎の分別廃棄が可能である。そして、遊技球発射装置により発射された遊技球Bは、主として外レール13(摺動プレート27)によって遊技盤5の上部へと案内される。なお、内レール12の先端部分には、戻り球防止部材34が取着されている。これにより、一旦、内レール12の先端から遊技盤5の上部へと案内された遊技球Bが再度内レール12及び外レール13間の発射通路内に戻ってしまうといった事態が防止されるようになっている。

【0130】

次に、主要な特徴部分について説明する。すなわち、本実施の形態では、遊技盤5の盤面上に区画される遊技領域が従来よりもはるかに大きく構成されている。本実施の形態では、外レール13の最上部地点からアウト口25上部(遊技盤5下部)までの間の距離は462mm(従来品よりも75mm長い)、外レール13の極左位置から内レール12の極右位置までの間の距離は449mm(従来品よりも65mm長い)となっている。また、内レール12の極左位置から内レール12の極右位置までの間の距離は432mmとなっ

【0131】

本実施の形態では、遊技領域を、パチンコ機1の正面から見て、内レール12及び外レール13によって囲まれる領域のうち、内外レール12,13の並行部分である誘導レールの領域及びアウト口25の領域を除いた領域としている。なお、アウト口25については、従来のように略円弧状の内レール12の内周側領域に差し掛かるように構成されたものにあつては、その差し掛かった部分を含めて遊技領域とする。従って、本実施の形態では、遊技領域と言った場合には、誘導レール部分は含まないため、遊技領域の向かって左側限界位置は外レール13によってではなく内レール12によって特定される。同様に、遊技領域の向かって右側限界位置は内レール12によって特定される。また、遊技領域の下

側限界位置はアウト口 2 5 の直上位置（本実施の形態では遊技盤 5 の下端位置と同一位置）によって特定される。また、遊技領域の上側限界位置は外レール 1 3 によって特定される。

【 0 1 3 2 】

従って、本実施の形態では、遊技領域の幅（左右方向の最大幅）は、4 3 2 mm であり、遊技領域の高さ（上下方向の最大幅）は、4 6 2 mm である。

【 0 1 3 3 】

ここで、前記遊技領域の幅は、少なくとも 3 8 0 mm 以上あることが望ましい。より好ましくは 3 9 0 mm 以上、4 0 0 mm 以上、4 1 0 mm 以上、4 2 0 mm 以上、4 3 0 mm 以上、4 4 0 mm 以上、4 5 0 mm 以上、さらに 4 6 0 mm 以上であることが望ましい。もちろん、4 7 0 mm 以上であってもよい。即ち、遊技領域の幅は、遊技領域拡大という観点からは大きい程好ましい。また、遊技領域の高さは、少なくとも 4 0 0 mm 以上あることが望ましい。より好ましくは 4 1 0 mm 以上、4 2 0 mm 以上、4 3 0 mm 以上、4 4 0 mm 以上、4 5 0 mm 以上、さらには 4 6 0 mm 以上であることがより望ましい。もちろん、4 7 0 mm 以上、4 8 0 mm 以上、4 9 0 mm 以上としてもよい。即ち、遊技領域の幅は、遊技領域拡大という観点からは大きい程好ましい。なお、上記幅及び高さの組合せについては、上記数値を任意に組み合わせたものとしてもよい。

【 0 1 3 4 】

本実施の形態では、遊技盤 5 面に対する遊技領域の面積の比率は約 7 3 % と、従来に比べ格段に面積比が大きいものとなっている。なお、遊技盤 5 面に対する遊技領域の面積比は、従来では 5 0 % 程度に過ぎなかったことから、遊技盤 5 を共通とした前提においてはかなり遊技領域を拡大しているといえる。尚、パチンコ機 1 の外形は各製造者毎にほぼ共通しており遊技盤 5 の大きさも同様とせざるを得ない状況下において、上記のように遊技盤 5 面に対する遊技領域の面積の比率を約 2 0 % も高めたことは、遊技領域拡大の観点で非常に有意義である。ここで、前記比率は、少なくとも 6 0 % 以上であることが望ましい。さらに好ましくは 6 5 % 以上であり、より好ましくは 7 0 % 以上である。また、本実施形態の場合を越えて 7 5 % 以上であれば、一層望ましい。さらには、8 0 % 以上であってもよい。

【 0 1 3 5 】

また、パチンコ機 1 全体の正面側の面積に対する遊技領域の面積の比率は約 4 0 % と、従来に比べ格段に面積比が大きいものとなっている。なお、パチンコ機 1 全体の正面側の面積に対する遊技領域の面積比は、3 5 パーセント以上であるのが望ましい。もちろん、4 0 パーセント以上としてもよいし、4 5 パーセント以上、又は 5 0 パーセント以上としてもよい。

【 0 1 3 6 】

但し、本実施の形態においては、上記のように遊技領域を大きくする都合上、遊技領域が遊技盤 5 面の周縁に非常に近い位置まで占めている。その結果、内外レール 1 2 , 1 3 の誘導レール部分の一部が、遊技盤 5 よりも外にはみ出した格好となっている。なお、誘導レール部分に限らず、遊技領域の一部、即ち内レール 1 2 よりも内周側領域の一部が遊技盤 5 よりも外にはみ出した状態とすることも可能である。例えば、遊技領域は遊技盤 5 面の左側にはみ出すだけでなく、右側にはみ出してもいいし、上下の一方又は両方にはみ出してよい。かかる構成とすることで、遊技領域が左右方向に広く確保され、かつ、大きな可変表示装置 9 が設置された場合でも十分な遊技球落下領域を確保することが可能となる。なお、可変表示装置 9 の両側に位置するスルーチャッカー 1 0 は、該チャッカー 1 0 を通過した遊技球 B が中央の方へ寄せられるような案内機構を有している。これにより、遊技領域が左右方向に拡張されている場合であっても、遊技球を中央の作動チャッカー 8 や可変入賞装置 7 の方へと案内することができ、ひいては、遊技領域が拡張されることにより遊技球 B が入賞しにくくなることによる興趣の低下が抑制されるようになっている。さらには、遊技領域が左右方向に拡張されていることによって、風車、スルーチャッカー 1 0、複数の釘（遊技球 B を中央に誘導するための三角釘等の誘導釘）、他の役物を種々

10

20

30

40

50

配設することができ、可変表示装置 7 の左右両側の遊技領域での遊技球 B の挙動を一層面白くすることができるようになっている。

【 0 1 3 7 】

また、上述したように、導出部 1 8 が内レール 1 2 によって形成される円弧形状よりも下方に突出した状態で配置されている。即ち、アウト口 2 5 が遊技領域から下方に外れた位置に配置されている。その結果、遊技領域が上下方向にも広く確保され、かつ、大きな可変表示装置 9 が設置された場合でも十分な遊技球落下領域を確保することが可能となる。従って、普通入賞チャッカー 6、可変入賞装置 7、作動チャッカー 8 及び可変表示装置 9 等を規制されることなく配設でき、しかも、釘、風車等についても規制されることなく配設することができる構成となっている。

10

【 0 1 3 8 】

例えば、本実施の形態においては、可変入賞装置 7（遊技機器の 1 つを構成する）は、アウト口 2 5 の直近上方、すなわち、遊技盤 5 のほぼ最下部に配設されている。これにより、可変入賞装置 7 のアタッカ（開閉板）の上方の領域が広がる。そのため、可変入賞装置 7 と可変表示装置 9 との間隔を従来に比べ広げることができる。従って、可変入賞装置 7 と可変表示装置 9 との間に、作動チャッカーが窮屈に配置されざるを得なかった従来の場合と比べて、作動チャッカー 8 を余裕をもって配置することができる。また、可変入賞装置 7 と可変表示装置 9 との間隔が広げられる分、別途の遊技機器をも配置することが可能となる。さらに、アタッカの上方に釘等を多く、かつフレキシブルに植設できることから、遊技球 B の衝撃を緩和させることができ、もって、可変入賞装置 7 や球受け部材 1 7 等の損傷を防止でき、遊技球 B の整流（例えば大当たり時に可変入賞装置 7 の方へ遊技球 B を導く等）を容易に行うことができる。また、アウト口 2 5 に導かれる遊技球 B がほとんど見えないこととも相まって、大当たり時にほとんどの球が可変入賞装置 7 の方へと案内されているかのような気分を味わうことができるようになっている。さらに、可変入賞装置 7 の取付基板の下部形状を、内レール 1 2 に沿った円弧状に形成することができる。このため、著しい外観品質の向上を図ることもできるようになっている。

20

【 0 1 3 9 】

図 8 は、ガラス扉枠 4 の背面図である。同図に示すように、ガラス扉枠 4 には前記遊技領域のほとんどを外部から視認することができるよう略円形状の窓部 4 1 が形成されている。本実施の形態において、前記窓部 4 1 の上端（外レール 1 3 の最上部、遊技領域の上端）と、ガラス扉枠 4 の上端との間の距離（いわゆる上部フレーム部分の上下幅）は 5 0 m m となっており、8 5 m m ~ 9 5 m m 程度上部フレーム幅がある従来技術に比べ、著しく短くなっている。これにより、遊技領域の上部領域が確保されやすくなるとともに、大型の可変表示装置 9 も比較的上方に配置することができるようになっている。なお、上記距離は、8 0 m m 以下であることが望ましく、より望ましくは 7 0 m m 以下であり、さらに望ましくは 6 0 m m 以下である。もちろん、所定の強度が確保できるのであれば、5 0 m m 以下であっても差し支えない。

30

【 0 1 4 0 】

また、窓部 4 1 の左端と、ガラス扉枠 4 の左端との間の最短距離（いわゆる左側部フレーム部分の左右幅：図では右側に表示されている）は、ガラス扉枠 4 自体の強度及び支持強度を高めるために比較的大きく設定されている。より詳しくは、図 1 及び図 2 を相互に比較すると明らかなように、ガラス扉枠 4 が閉じられた状態において、外レール 1 3 の左端部はもちろん、内側レール 1 2 の左端部も前記左側部フレーム部分によって覆い隠される。即ち、誘導レールの一部が覆い隠される。このように遊技球 B が一時的に視認困難となったとしても、それは、遊技球 B が遊技領域に案内される通過点に過ぎず、遊技者が主として遊技を楽しむ遊技領域において遊技球 B が視認困難となるわけではない。そのため、実際の遊技に際しては何ら支障が生じない。また、このような支障が生じない一方で、ガラス扉枠 4 の十分な強度及び支持強度が確保可能となっている。ちなみに、外レール 1 3 の左端位置と外枠 2 左端位置との左右方向の距離は 2 1 m m、遊技領域の右端位置（内レール 1 2 の右端位置）と外枠 2 右端位置との左右方向の距離は 4 4 m m となっている。

40

50

【0141】

なお、一般に、人の視界は（視線及び頭を移すことのない場合）、鉛直方向には眼の水平線よりも上方に25度、下方に35度程度とされている。また、水平方向には両眼間を中心に左右40度ずつ、つまり、80度以内とされている。そして、遊技者及び遊技盤5間の距離を例えば550mm程度とすると、遊技領域の適切な大きさとしては、左右幅が700mm以内が望ましく、650mm以内がより望ましく、600mm以内がさらに望ましい。また、550mm以下でもよい。さらに、上下幅（高さ）が650mm以内が望ましく、600mm以内がより望ましい。また、550mm以内としてもよい。

【0142】

さらに、図8, 9に示すように、ガラス扉枠4の裏側には、ガラス支持金枠42が設けられており、該ガラス支持金枠42に一对の矩形状のガラス43, 44が前後に所定間隔を隔てて取着されている。上述のような広大な遊技領域に対応するべく、従来のパチンコ機と同様のクリアランスをもってガラス支持金枠42を構成しガラス43, 44の大きさを決定するとすれば、ガラス43, 44は非常に大きなものになってしまう。ガラス43, 44の重みはガラス扉枠4に直接作用するため、広い遊技領域に対応したフレーム強度のさほど高くないガラス扉枠4においては、重量の大きなガラス43, 44を用いることは得策ではない。そこで、本実施の形態では、ガラス43, 44の面積を最小限に抑えるべく、前記ガラス支持金枠42の左側部フレーム部分に対応する部分が、前記窓部41近傍に位置している。これにより、ガラス43, 44の総重量が多少なりとも抑えられ、ガラス扉枠4のフレーム、特に前記左側部フレーム部分にかかる負担軽減が図られている。

【0143】

一方、上記のような構成とすることにより、ガラス扉枠4が閉じられた状態にあっては、外レール13及び内レール12によって構成されている遊技球Bの発射路（誘導レール）の一部は、奥側のガラス44で覆われない部分が存在する。つまり、ガラス扉枠4が閉じられた状態にあってはガラス44で覆われない部分は隙間となる。そして、該隙間部分が一切覆われていないと、例えば、発射された遊技球Bが戻り球防止部材34まで至らず戻ってきた場合に、該遊技球Bが前記隙間部分から手前側にこぼれて（飛び出して）しまうおそれがある。このような事態を防止するべく、本実施の形態では、前記ガラス支持金枠42のうち、前記極左部分及びその近傍に対応する部分は、ガラス44を支持するためではなく、ガラス44の代わりに隙間を覆うために反対側に折り返されている。そして、この折り返し部分によってカバー部（カバー部材）45が構成されている。従って、遊技球Bが戻ってきたとしても、カバー部45の存在により、遊技球Bが手前側にこぼれてしまうといった不具合が回避される、つまり、遊技球Bの脱落防止機能が、換言すれば、確実な発射路（誘導レール）の形成機能が果たされるようになっている。従って、誘導レールは平面的にみれば内外レール12, 13によって構成されているのであるが、詳細にみれば（立体的にみれば）、誘導レールは、前面枠3に形成された内外レール12, 13及びガラス扉枠4に設けられたガラス44及びカバー部45によって構成されているといえる。

【0144】

併せて、図2に示すように、ガラス扉枠4の存在していない前面枠3下部は、例えばABS（アクリロニトリル - ブタジエン - スチレン）樹脂よりなる下受皿ユニット51となっている。下受皿ユニット51の右下部からは、遊技球発射用ハンドル52が手前側に延設されている。また、下受皿ユニット51のほぼ中央部には球受皿としての景品球払出用の下受皿53が設けられている。

【0145】

これに対し、球受皿としての上受皿54はガラス扉枠4の下部フレームに一体的に設けられている。ここで、上受皿54は、遊技球Bを遊技球発射装置の方へ導く前に一旦遊技球Bを貯留するための受皿をいう。すなわち、従来ではガラス扉枠の下方に前面枠3に対し開閉可能な前飾り枠が設けられ、該前飾り枠に上受皿が設けられていたのであるが、本実施の形態では、前飾り枠が省略され、前面枠3に対し直接的に上受皿54が設けられている

。

【 0 1 4 6 】

これは、パチンコ機 1 自体の大きさが従前通りであるのに対し、遊技領域が上下方向に広げられていることに起因する。すなわち、従来と同様に前飾り枠を設けたのでは、ガラス扉枠の下部フレームの上下幅を小さくせざるを得ず、ひいてはガラス扉枠の強度が低下してしまう。このような不具合をなくすべく、本実施の形態では、前面枠 3 に対し上受皿 5 4 が設けられ、これにより、遊技領域の拡大を図りつつ、ガラス扉枠 4 の下部フレームの十分な上下幅を確保することができ、もって、ガラス扉枠 4 の十分な強度が確保されている。

【 0 1 4 7 】

また、本実施の形態では、上受皿 5 4 の球受面は、パチンコ機 1 の下端より 2 4 5 mm の高さに位置している。従って、球受け面が前記下端より 3 0 0 mm 程度といった高い位置に配置されていた従来の場合と比べて、遊技領域を拡大しやすくなっている。なお、上受皿 5 4 の球受面がパチンコ機 1 下端より 2 6 0 mm 以下であるのが望ましく、2 5 0 mm 以下であるのがより望ましい。さらに、2 4 0 mm、2 3 0 mm、2 2 0 mm、2 1 0 mm、又は 2 0 0 mm 以下となる範囲に配置されるように構成してもよい。なお、2 0 0 mm 未満とする場合には上受皿 5 4 の下方に下受皿 5 3 を設けることが困難となるため、下受皿 5 3 を設ける場合には下限値は 2 0 0 mm となる。勿論、所謂下受皿を省略して構成すれば 2 0 0 mm 以下の設定が可能である。

【 0 1 4 8 】

さらに、図 2 , 8 に示すように、本実施の形態では上受皿 5 4 に遊技球 B が払い出される球払出通路 9 0 が遊技盤 5 の下方に設けられている。球払出通路 9 0 は、前面枠 3 に形成され下受皿 5 3 に連通する樋状の第 1 通路 9 1 と、ガラス扉枠 4 に形成されて第 1 通路 9 1 から遊技球 B を上受皿 5 4 へ導く筒状の第 2 通路 9 2 とから構成されている。このため、ガラス扉枠 4 の開放時には、第 1 通路 9 1 と第 2 通路 9 2 との連通状態が解除されて第 1 通路 9 1 から下受皿 5 3 へ遊技球 B が導かれる。一方、第 1 通路 9 1 にはガラス扉枠 4 の閉鎖時に、第 2 通路 9 2 が入り込むための開口 9 3 が設けられている。

【 0 1 4 9 】

このように、遊技盤 5 の下方に球払出通路 9 0 を設けることで、遊技盤 5 に球払出通路 9 0 のための貫通孔や切欠をルータ加工により形成する必要がなくなり、その加工の手間がなくなるばかりか、遊技盤 5 面の下部領域を遊技領域のために用いることが可能となって遊技領域拡大に寄与することが可能となる。また、ガラス扉枠 4 を開放して第 1 通路 9 1 と第 2 通路 9 2 との連通状態が解除されると、上受皿 5 4 に遊技球 B が払い出されることがないが、遊技球 B は第 1 通路 9 1 から直接下受皿 5 3 へ導かれるので、ガラス扉枠 4 の開閉にかかわらず遊技球 B の払出が円滑に行われる。従って、ガラス扉枠 4 に上受皿 5 4 を一体に設けたことによる払出球の取扱上の難点を簡易な構成によって解消することができる。その結果、遊技領域を容易に拡大することができるようになっている。

【 0 1 5 0 】

なお、本実施の形態においては、ガラス扉枠 4 の周囲（例えばコーナー部分）に、各種ランプ等の発光手段が設けられている。これら発光手段は、大当たり時や所定のリーチ時等の遊技状態の変化に応じて点灯、点滅のように発光態様が変更制御され遊技中の演出効果を高める役割を果たすようになっている。もちろん、これらランプ等の発光手段を、遊技盤 5 に設ける構成（コーナー飾りと称される電飾部材を遊技盤 5 のコーナー部等に配設する）としてもよいし、場合によっては前面枠 3 に設ける構成としてもよい。さらには、前後一対のガラス 4 3 , 4 4 間に配設する構成としてもよい。

【 0 1 5 1 】

また、周知のとおり、前面枠 3 が外枠 2 に対し閉じられると自動的にロックがかかるようになっており、所定のキー操作が行われることによりロックが解除されるようになっている。同様に、ガラス扉枠 4 が前面枠 3 に対し閉じられると自動的にロックがかかり、別途のキー操作が行われることによりロックが解除されるようになっている。このようにロッ

10

20

30

40

50

ク及びロック解除を行うためのロック機構が前面枠3の右下部に設けられている。ロック機構には、鍵穴を有するキーシリンダ（解除キー）55、前面枠3及び外枠2間でのロック及び解除を行うための第1ロック機構、並びに、ガラス扉枠4及び前面枠3間でのロック及び解除を行うための第2ロック機構が含まれる。本実施の形態では、最も幅狭で、遊技領域の拡張を阻害する前面枠3の右中央部ではなく、比較的スペース的にもゆとりのある前面枠3の右下部に、キーシリンダ55をはじめとする上記ロック機構（特にキーシリンダ55）が配設されている。換言すれば、キーシリンダ55は、遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置されている。

【0152】

このような構成により、遊技領域の拡張をより容易かつ確実に図ることができる。また、通常、キーシリンダを配設するための切り欠き又は穴をガラス扉枠4等に設ける必要があるのであるが、上記のような構成によれば、比較的強度の高い幅広な部分（右下部）にキーシリンダ用の切り欠き又は穴を設けるため、ガラス扉枠4等の右側部の強度低下を抑制することができる。

【0153】

もちろん、最も幅狭な部分以外であれば、上記以外の部位に設けてもよく、例えば、前面枠3の右上部に設けるような構成としてもよい。また、上記例では、第1ロック機構及び第2ロック機構をキーシリンダ55でともにロック状態を解除可能としたが、それぞれの解除のためのキーシリンダを別体で設けることとしてもよい。

【0154】

以上詳述したように、本実施の形態によれば、誘導レールの一部が遊技盤5表面からはみ出た状態に形成した。このため、従来のように遊技盤面の面積に左右されることなく、遊技領域を画定することが可能となって、遊技領域の拡大を図ることができる。その結果、遊技領域の大きさに関してこれまでの固定観念を覆し、より興味深い遊技を実現することができる。なお、遊技領域自体をも遊技盤5面からはみ出すように構成することも可能であり、これにより遊技領域の更なる拡大を実現することができる。

【0155】

また、遊技領域を、遊技盤5表面と前面枠3とによって構成することもできるため、遊技領域の一部が遊技盤5表面から欠落する程度に大きく形成されていても、その欠落部分を前面枠3によって補うことにより遊技領域を構成できるので、従来のように遊技盤面の大きさに左右されることなく遊技領域を画定することが可能となって、遊技領域の拡大を図ることができる。そのため、上記作用効果をより確実なものとすることができる。

【0156】

さらに、本実施の形態では前面枠3を合成樹脂によって形成し、前面枠3の窓孔によって遊技領域の外延を画定し、前面枠3には更に発射された遊技球Bを遊技領域の主要領域へ誘導する誘導レール（内レール12及び外レール13）を設けた。このため、誘導レール部分が遊技盤に直接形成されるものではなく、前面枠3に形成されているので、誘導レール部分が遊技盤5面から逸脱した位置に配置されていても遊技領域を構成できるので、従来のように遊技盤面の大きさに左右されることなく遊技領域を画定することが可能となって、遊技領域の拡大を図ることができる。その結果、さらに一層上記作用効果が確実に奏される。

【0157】

併せて、本実施の形態では遊技領域を外れた箇所にアウト口25を設けたことにより、遊技領域がアウト口の分だけ狭くなるという従来の不都合を解消し、遊技領域を広く使用することが可能となる。特に、本実施の形態では、遊技領域を略円形状に形成し、遊技領域の最下縁を含む遊技領域（内レール12下端部の円弧状部）外にアウト口25を設けたことにより、上記効果がより確実となる。

【0158】

さらにまた、本実施の形態では遊技領域を遊技盤5の下端位置まで延長し、遊技盤5の下方にアウト口25を設けて遊技領域の下部とアウト口25とを連通させた。このため、さ

10

20

30

40

50

らに確実に上記効果が奏される。また、アウト口 25 は遊技盤 5 にルータ加工を施すことなく形成できるので、パチンコ機 1 の製造上の利点が大い。併せて、アウト口を直接遊技盤にルータ加工を施して貫通孔を形成することで制作するのではなく、遊技領域を画定する仕切の下部を下方に開口させてその開口をアウト口 25 に連通させる構成としているので、アウト口 25 の設計上の自由度が高まり、遊技領域拡大の際に無理が生じにくくなる。なお、かかる設計変更例については後述する。

【0159】

加えて、前面枠 3 が遊技盤 5 の前面側に遊技領域を画定する仕切（内外レール 12, 13）を有し、該仕切（内レール 12）の下部が下方に開口されており、該開口を下方より覆う被覆片（即ち、突出部分）によって囲まれた領域をアウト口 25 とした。このため、アウト口を直接遊技盤にルータ加工を施して貫通孔を形成することで制作するのではなく、上記効果が確実に奏され、遊技領域拡大の際に無理が生じにくくなる。

10

【0160】

特に、前記突出部分は内レール 12 と一体形成されたものであるため、これらを前面枠 3 の制作時に一括して形成することができ、製造上の利点を高めることができる。さらに、本実施の形態では遊技領域を遊技盤 5 の下端位置まで延長し、遊技盤 5 の下方にアウト口 25 が配置されるようにした。このため、遊技領域を遊技盤 5 の下端位置まで延長することで遊技領域の拡大を図ると同時に、アウト口 25 は遊技盤 5 面より下方に配置されることとなることからアウト口 25 のためのルータ加工を遊技盤 5 に施す必要がなくなる。

【0161】

また、ガラス扉枠 4 のうち縦の部分（支持部分）を、パチンコ機 1 正面からみて内レール 12 に重複する程度に形成した。このため、たとえ遊技領域が拡大されてもガラス扉枠 4 の縦の部分に十分な太さに形成することができ、非常に重いガラス 43, 44 を支持するのに十分な強度をガラス扉枠 4 に持たせることができる。また、誘導レール（内レール 12 及び外レール 13）の側方部分は遊技球 B を遊技領域へ導くための案内に過ぎないので、たとえガラス扉枠 4 と重複していても遊技に支障はない。

20

【0162】

さらに、ガラス扉枠 4 を合成樹脂により形成したことで、ガラス扉枠 4 の形状の自由度が高まり、例えばガラス扉枠 4 にランプ等の表示手段を設けたり、ガラス扉枠に上皿を一体に設けたり、前面枠 3 又は遊技盤 5 に設けられた表示部（例えば、表示装置やシール等の表示情報等）を透視するための透視窓を形成するといった斬新な構成を採用することが可能となる。

30

【0163】

併せて、本実施の形態において、ガラス 44 は、発射された遊技球 B を遊技領域へ誘導する外レール 13 の前面側を一部のみ被覆し、被覆されていない箇所は別のカバー部 45 によって遊技球 B の脱落を防止した。このため、ガラス 44 が外レール 13 の全部を被覆するものではないことからガラス 43, 44 を小さくすることができてその重量を低減でき、ガラス扉枠 4 の強度上の問題、特に遊技領域拡大により縦の部分が細くなることに伴う強度低下の問題を解消し得る。また、上述したように誘導レールを通過する遊技球 B を遊技者が見ることができなくても遊技には支障がないが、上記のとおり誘導レールの少なくとも一部にガラスが存在しないことでそこから遊技球が脱落するおそれがある。しかし、本実施の形態ではカバー部 45 がガラス支持金枠 44 に設けられているので、誘導レールからの遊技球 B の脱落を防止することができる。

40

【0164】

さらに、カバー部 45 はガラス扉枠 4 側に設けられていることから、ガラス扉枠 4 の開放時にはカバー部 45 も追従するため、誘導レール手前側がカバー部 45 に邪魔されることなく開放され、誘導レールの清掃等の邪魔にはならない。さらに、ガラス支持金枠 42 にガラス扉枠 4 のカバー部材 45 を付設することで、別途カバー部材を用意する必要がない。しかも、ガラス 43, 44 の周縁部にカバー部 45 を容易に配置できる位置関係となるので、誘導レールのカバーに適している。

50

【0165】

また、遊技領域の幅（左右方向の最大幅）を従来のパチンコ遊技機よりも広い380mm以上、さらには390mm以上、400mm以上、410mm以上、420mm以上（430mm以上、440mm以上、450mm以上、460mm以上、470mm以上でもよい）とすることにより、遊技領域に配される普通入賞チャッカー6、可変入賞装置7、作動チャッカー8、可変表示装置9、スルーチャッカー10、各種釘、風車等の各種誘導部材や各種役物の設置上の自由度が高められる。また、これとともに比較的大きな役物や多数の役物の配置も容易に行うことができる。その結果、遊技領域の大きさに関してこれまでの固定観念を覆し、より興味深い遊技を実現することができる。

【0166】

また、遊技領域の高さも従来のパチンコ遊技機よりも広い400mm以上、さらには410mm以上、420mm以上、430mm以上、440mm以上、450mm以上、460mm以上（470mm以上、480mm以上、490mm以上でもよい）とすることにより、上記の作用効果がより一層顕著なものとなる。

【0167】

なお、本実施の形態では、遊技領域が略円形状に形成されているため、上記事項を勘案すると、遊技領域を直径でみて少なくとも380mm以上の円が含まれる領域とし、更には該直径を390mm以上、400mm以上、410mm以上、420mm以上（430mm以上、440mm以上、450mm以上、460mm以上、470mm以上でもよい）とすることができる。このように、本実施の形態では、幅及び高さの両方、あるいは遊技領域が含む円の直径について従来の固定観念を覆して広くしていることで、ダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。

【0168】

さらに、本実施の形態では、遊技盤5の表面積に対する遊技領域の面積を60パーセント以上、65パーセント以上、70パーセント以上、75パーセント以上（80パーセント以上でもよい）とすることができる。このように遊技盤5との対比において遊技領域が60パーセント以上という広い占有面積を有することで、例えば遊技盤5として既存のものを利用した場合であっても、十分に大きな遊技領域を確保することができる。これにより著しくダイナミックな遊技形態を提供することが可能となる。ちなみに、従来は上記した比率はおよそ50パーセント程度に過ぎず、遊技盤面の有効利用は十分に図られておらず、遊技領域もその分小さくならざるをえなかった。

【0169】

特に、本実施の形態では、誘導レールの一部は遊技盤5面を越えて（はみ出して）形成されており、これにより上記した比率の実現に寄与することとなっている。このため、遊技領域の拡張を容易かつ確実に行うことができる。なお、遊技領域の一部を遊技盤5面を越えて（はみ出して）形成すれば、より一層簡単に遊技領域の拡張を実現できる。

【0170】

さらに、遊技領域の上端位置と外枠上端位置との高さ方向の距離を80mm以下（実際には50mm）とした。このため、遊技領域を十分に上部にまで広げることができる。これにより、遊技領域の大きさを従来よりも大きくした場合において、天釘位置を従来の位置よりも上方に配置することができ、結果としてその下方に設けられる可変表示装置7等の役物を遊技者に違和感のないように配置することが可能となる。また、遊技領域を拡大した場合に上記のように遊技領域の上端位置と外枠上端位置との高さ方向の距離を80mm以下と比較的小さく設定することによって、遊技領域が異常に下方に配置されることを防止できる。

【0171】

同様に、外レール13の左端位置と外枠左端位置との左右方向の距離を30mm以下（実際には21mm）とし、遊技領域の右端位置と外枠右端位置との左右方向の距離を50mm以下（実際には44mm）とすれば、遊技領域を十分に左右方向に広げることができる。

【 0 1 7 2 】

さらに、本実施の形態では、前面枠 3 は合成樹脂により一体形成されており、該前面枠 3 に直接遊技盤 5 が取り付けられているため、一般に前面枠が木製である従来技術に対し、前面枠 3 の形状の自由度が増し、中枠を利用することなく直接前面枠 3 に遊技盤 5 を取り付けすることができる。

【 0 1 7 3 】

併せて、前面枠 3 に窓孔を形成し、該窓孔によって遊技盤 5 の露出された領域の全部又は一部を遊技領域とした。このため、従来のように遊技盤面に誘導レールをプレスして遊技領域を構成する必要がなくなり、遊技盤 5 だけを交換するということも容易に実現でき、枠側の構成（例えば内レール 1 2、外レール 1 3 等）の再利用が促進される。特に、上述したように前面枠 3 を合成樹脂とすることで、形状の自由度の高さによって、上記作用効果の実現が容易になる利点がある。

10

【 0 1 7 4 】

加えて、本実施の形態では、ロック機構、特にキーシリンダ 5 5 を遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置した。このため、キーシリンダ 5 5 等の存在により遊技領域の拡大が阻害されることを確実に防止することができる。特に、本実施の形態では、前面枠 3 のロック解除用のキーシリンダ 5 5 とガラス扉枠 4 のロック解除用のキーシリンダ 5 5 とが兼用されているので、両機能を兼ねたキーシリンダ 5 5 を遊技領域の最大幅となる位置を避けて配置することで、容易に遊技領域の拡大を促進することができる。特に、本実施の形態では、ガラス扉枠 4 等の略下角部（右下部）に設けることとした。該右下部は比較的余裕があるため、ここにキーシリンダ 5 5 を配置することで、キーシリンダ 5 5 を無理なく配置しつつ遊技領域を拡大することができる。なお、この場合、略右上部には遊技の興趣を高めたり所定の報知を行うためのランプ等が配置されることが多いこと、及びキーシリンダを上部に配置することは外観上好ましくないこと等を考慮すると、外観品質上も好ましいといえる。

20

【 0 1 7 5 】

さらにまた、本実施の形態において、可変表示装置 9 が遊技領域の中間位置に配置され、遊技領域には可変表示装置 9 の全周囲に遊技球 B が通過し得る領域が残されている。このため、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置 9 を遊技領域の中間位置に配置した場合においても、その可変表示装置 9 によって遊技球 B の通過領域が阻害されてしまうことがなく、無理に可変表示装置 9 の上部から下部へ導く通路を設けたりする必要がない。特に、可変表示装置 9 の左右両側は、遊技球 B の移動経路（落下経路）が一義的に規制されることなく所定の遊びをもって通過可能な幅を有する。このため、遊技領域拡大によって、比較的大きな可変表示装置 9 を遊技領域の中間位置に配置した場合においても、その可変表示装置 9 の側方での遊技球 B の移動（落下）に関して自由な挙動が発生し、遊技球 B を用いたパチンコ機 1 の本来の面白みをなくしてしまうおそれがない。

30

【 0 1 7 6 】

また、該部分には各種役物（入賞口や通過口や風車や可動部材や表示装置等）を配置することができる。従って、大画面を用いたダイナミックな表示演出を実現しつつ、遊技球 B を中央方向へ無理なく寄せたり、遊技球 B の挙動についても全体として大きな変化を与えることができる。興趣の向上を図ることができる。さらに、各種役物や遊技球 B を誘導する誘導部材（誘導釘や誘導通路等）がそれぞれ配置されているため、上記作用効果がより確実に図られる。

40

【 0 1 7 7 】

特に、前記可変表示装置 9 は、10 インチ以上の表示画面を有する。ここで、一般には遊技球 B の挙動を十分に確保するには従来の遊技領域の大きさではせいぜい 7 インチ画面の可変表示装置が限界であって、それ以上の大きさの可変表示装置を用いた場合には遊技球 B の挙動が非常に限られたものとなっていたため殆ど採用されていなかったが、上記のように遊技領域を拡大させることによって、余裕をもって遊技球 B の挙動に変化を与えるゲー

50

即ち、本実施の形態によれば、８インチ以上の画面を有する可変表示装置９であれば十分な余裕をもって遊技球Ｂの挙動に十分な面白味を付与することが可能である。また、さらに１０インチ以上の画面を有する可変表示装置９であっても十分に大きな空間を確保できる。

【０１７８】

尚、上述した実施の形態の記載内容に限定されず、例えば次のように実施してもよい。

【０１７９】

(a) 上記実施の形態では、内レール１２下部の突出部分及び球受け部材１７の導出部１８の形状を略Ｕ字状とした。これに対し、図１０に示すように、突出部分の左側下部をテーパ形状とし、導出部６１もこれと同様の形状となっている球受け部材６２を採用してもよい。このような構成とすることで、発射された直後の遊技球Ｂの発射路が突出部分等によって阻害されることがなく、より安定した発射を確保することができる。また、テーパ形状とすることで、遊技球を右側下部へと案内しやすくなり、アウト口２５に入った遊技球を円滑に排出させることができる。更に、上記のとおり発射路との関係でアウト口２５を従来よりも大幅に下方へ配置することができることとなり、遊技領域の拡大に一層寄与し得る。また、図１１に示すように、突出部分の両側下部をテーパ形状とし、導出部６３もこれと同様の形状となっている球受け部材６４を採用してもよい。このような構成とすることで、上記と同様の作用効果が奏されるとともに、左右対称形状となることから前面枠３の製作時の型設計が容易になり、ガラス扉枠４の開放時の見栄えもよくなり、外観品質の向上をも図ることができる。

【０１８０】

(b) また、図１２に示すように、突出部分の底面を段差形状とし、導出部６５もこれと同様の形状となっている球受け部材６６を採用してもよい。このような構成とすることで、遊技球を複数列で奥側へと案内しやすくなり、アウト口２５に入った遊技球をより一層円滑に排出させることができる。さらに、図１３に示すように、突出部分の左右幅を、例えば可変入賞装置７のアタッカよりも大きく構成し、導出部６７もこれと同様の形状となっている球受け部材６８を採用してもよい。このような構成とすることで、可変入賞装置７（アタッカ）を遊技盤５の最下限位置に配設することが可能（アタッカが開いても、その両側部から遊技球を導出部６７へと導くことが可能）となり、遊技領域のさらなる拡張を図ることができる。なお、この場合、同図に示すように、導出部６７に案内された遊技球を整流させて円滑な導出を図るべく、後壁６９を設けてアウト口２５の左右幅を導出部６７の左右幅よりも小さい構成とすることが望ましい。

【０１８１】

(c) さらに、上記実施の形態では、可変入賞装置７はその取付基板７ａを介して遊技盤５に装着される構成となっており、同様に普通入賞チャッカー６等についても取付基板を介して遊技盤５に装着される構成となっていた。これに対し、図１４に示すように、可変入賞装置７、普通入賞チャッカー６、スルーチャッカー１０等の各種装置を１つの取付基板７１で連結する構成とし、これを(１)遊技盤５に装着する、又は(２)前面枠３(内レール１２)に一体的に設ける、といった構成としてもよい。このような構成とすることで、部品点数の著しい低減を図ることができ、また、外観品質の向上をも図ることができる。さらに、上記(２)の場合には、遊技盤５が別のものに变更される場合であっても、各種可変入賞装置７、普通入賞チャッカー６、スルーチャッカー１０等を共用でき、廃棄する必要がない。このため、無駄な廃棄を抑制でき、リサイクル性に優れるといった効果も期待できる。

【０１８２】

(d) 上記実施の形態では、可変表示装置９の両側に、遊技球Ｂが中央の方へ寄せられるような案内機構を有するスルーチャッカー１０を設けることとした。これに対し、図１５に示すような遊技装置７２を設けることとしてもよい。この遊技装置７２は、入口７３、出口７４及びワープルート７５を備えている。そして、入口７３に入った遊技球はワープルート７５を通過して出口７４から導出される。そして、導出された遊技球は、中央部の

方へと案内される。なお、この場合、(1) 同図に示すように、スルーチャッカー 10 を別の部位 (例えば作動チャッカー 8 の両側部) に設けることとしてもよいし、又は (2) ワーブルート 75 の途中に検出スイッチ (図示略) を配設し、該ワーブルート 75 がスルーチャッカーを兼用するような構成としてもよい。

【0183】

また、図 16 に示すような遊技装置 76 を設けてもよい。この遊技装置 76 は、遊技球が中央の方へ寄せられるような案内機構を有するスルーチャッカー 77 及び普通入賞チャッカー 78 を備えている。

【0184】

さらには、図 17 に示すような遊技装置 79 を設けてもよい。この遊技装置 79 は、奥側に上下 2 つの入口 81, 82 のある風車役物 83 と、上下二段の出口 84, 85 と、入口 81 及び出口 84 間、入口 82 及び出口 85 間を連通する連通路とを備えている。そして、上部の入口 81 に入った遊技球は連通路を通して上方の出口 84 から導出される。また、下部の入口 81 に入った遊技球は連通路を通して下方の出口 85 から導出される。そして、導出された遊技球は、中央部の方へとそれぞれ案内される。上記のような構成とすることで、遊技球を中央の方へと案内できるとともに、遊技球の挙動を堪能することができ、さらなる興趣の向上を図ることができる。もちろん、1 つの入口に入った遊技球が、分岐路で分岐されて、2 つの出口のうち一方から導出されるような構成を具備する遊技装置を設けてもよい。

【0185】

但し、上記各遊技装置 72, 76, 79 の下部は、上部よりも中央側に配設されていないこと、特に、各遊技装置 72, 76, 79 は鉛直方向に縦長に配置されることが望ましい。これにより、可変表示装置 9 の両側において各遊技装置 72, 76, 79 に案内されることなく下方へ落下する遊技球の流れが阻まれてしまうといった事態を回避しやすいものとなる。この場合、「可変表示装置 (中央装置) の側部の遊技盤に遊技装置を設けるとともに、(1) 該遊技装置の下部は、上部よりも中央側に位置していないこと、(2) 該遊技装置は略鉛直方向に配置されること、さらには、これらにおいて、該遊技装置は、遊技球を中央へ案内するための案内機構を有していること」が特徴点となる。

【0186】

(e) 上記実施の形態では、透明板として、ガラス 43, 44 を採用したが、所定の透明性を有していれば、ガラスに代えて樹脂板を採用してもよい。

【0187】

(f) 本発明は、上記実施の形態とは異なるタイプのパチンコ機にも適用できる。従って、可変表示装置 9 等のないパチンコ機や、他の役物を備えたパチンコ機、また、アレパチと称されるアレンジパチンコ機、雀球と称されるパチンコ遊技機にも応用できる。

【0188】

(g) 上記実施の形態では、内レール 12 及び外レール 13 を前面枠 3 に一体形成したが、このうち誘導レール部分だけ或いは内外レール 12, 13 を全て遊技盤 5 面に設けてもよい。ただし、この場合、遊技盤 5 交換によって内外レール 12, 13 等も一緒に交換されることとなる。また、内外レール 12, 13 のうち誘導レール部分や内外レール 12, 13 全てを含んで前記前面枠 3 や遊技盤 5 とは別に中間板を設けてもよい。但し、この場合、中間板を別途設ける必要が生じ、部品点数増大は勿論のこと、前面枠、中間板及び遊技盤間の高度な位置調整が必要になる。

【0189】

【発明の効果】

以上詳述したように、本発明によれば、遊技領域の大きさに関してこれまでの固定観念を覆したことによって、従来より拡大された遊技領域を確保することができるので、遊技領域において一層興味深い遊技を実現することが可能となるという優れた効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】一実施の形態におけるパチンコ機を示す正面図である。

【図 2】ガラス扉枠を開放した状態における前面枠等を示す正面図である。

【図 3】遊技盤を示す正面図である。但し、内レール、外レール等については前面枠側に設けられているものである。

【図 4】前面枠の裏面側から見た状態を示す部分斜視図である。

【図 5】球受け部材を示す正面図である。

【図 6】内レールのうち、球受け部材の取付けられる部分を主として示す部分正面図である。

【図 7】(a) , (b) は前面枠の外レールに対する摺動プレートの取着態様を説明する部分断面図である。

【図 8】ガラス扉枠の背面図である。

10

【図 9】ガラス扉枠に取着されたガラス支持金枠等を示す拡大平面図である。

【図 10】別の実施の形態における球受け部材等を示す部分正面図である。

【図 11】別の実施の形態における球受け部材等を示す部分正面図である。

【図 12】別の実施の形態における球受け部材等を示す部分正面図である。

【図 13】別の実施の形態における球受け部材等を示す部分正面図である。

【図 14】別の実施の形態における遊技盤等を示す正面図である。

【図 15】別の実施の形態における遊技装置等を示す部分正面図である。

【図 16】別の実施の形態における遊技装置等を示す部分正面図である。

【図 17】別の実施の形態における遊技装置等を示す部分正面図である。

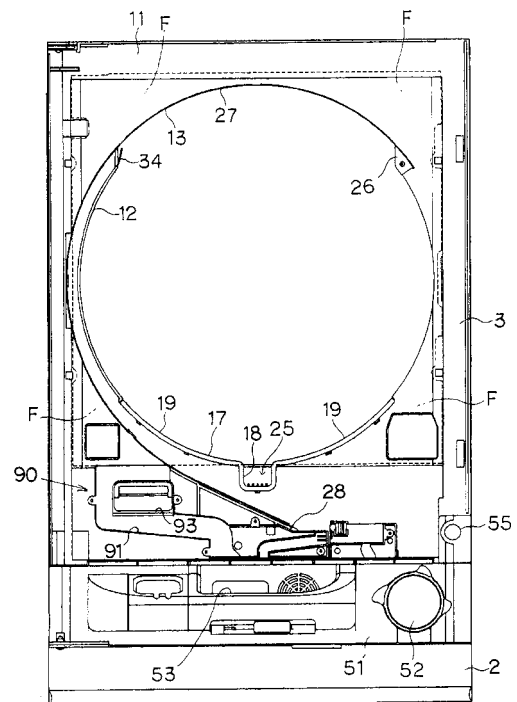
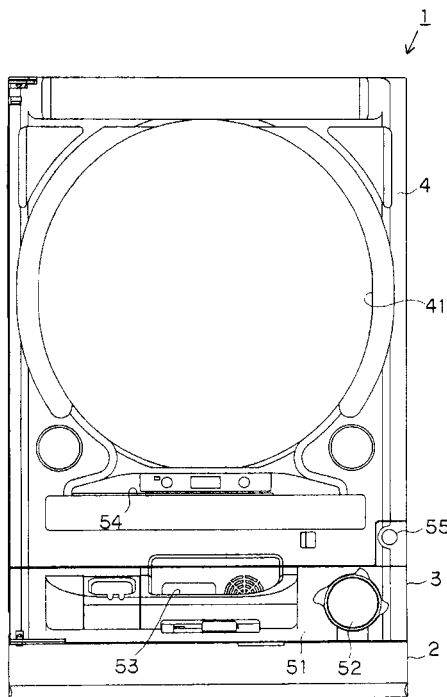
【符号の説明】

20

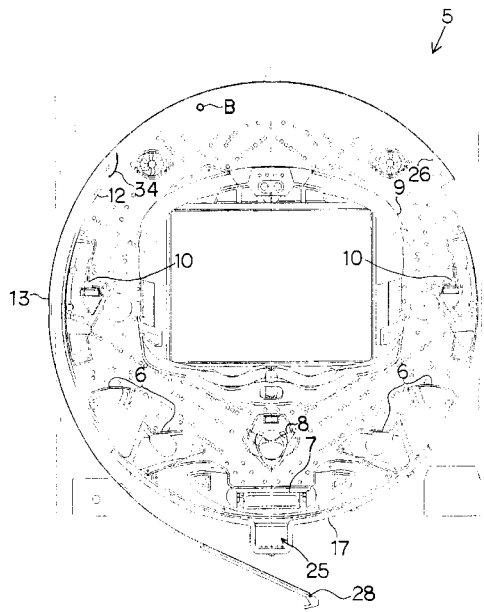
1 ...パチンコ遊技機、2 ...外枠、3 ...前面枠、4 ...ガラス扉枠、5 ...遊技盤、7 ...可変入賞装置、9 ...可変表示装置、11 ...樹脂ベース、12 ...内レール、13 ...外レール、14 ...板状部、15 ...リブ、17, 62, 64, 66, 68 ...球受け部材、25 ...アウト口、27 ...摺動プレート、41 ...窓部、42 ...ガラス支持金枠、43, 44 ...ガラス、45 ...カバー部、53 ...下受皿、54 ...上受皿、55 ...キーシリンダ。

【図 1】

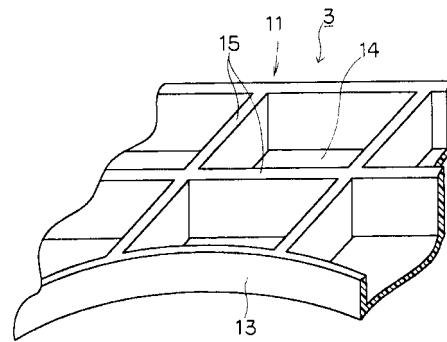
【図 2】



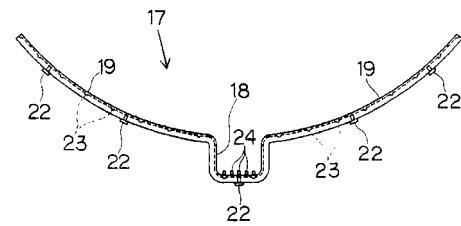
【図 3】



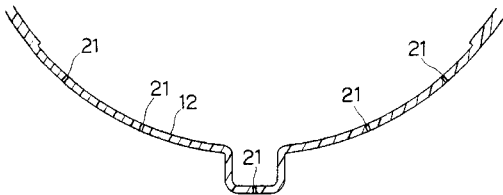
【図 4】



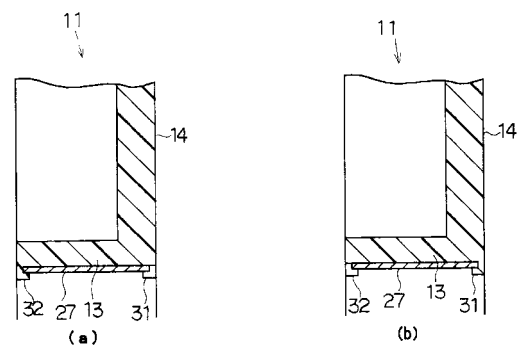
【図 5】



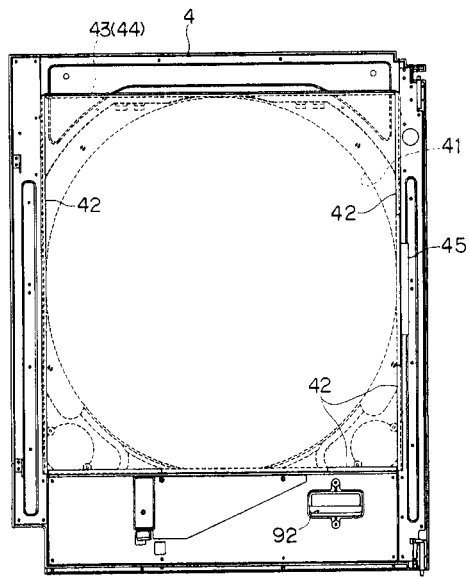
【図 6】



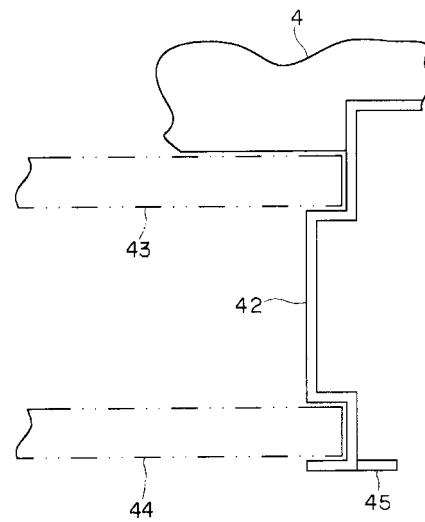
【図 7】



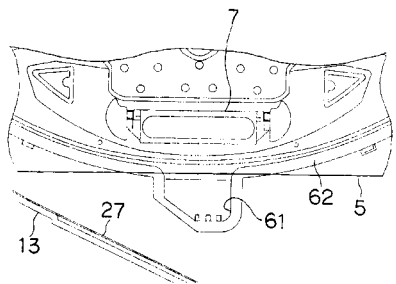
【図 8】



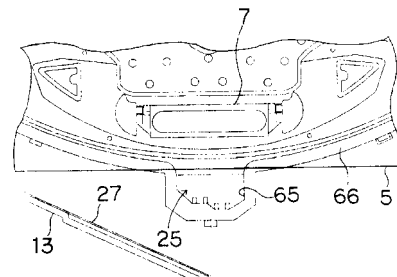
【図 9】



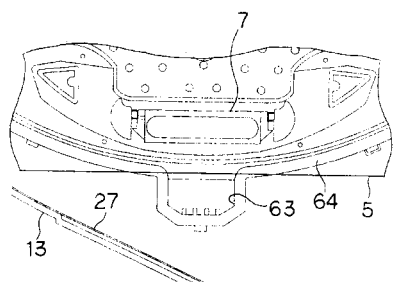
【図 10】



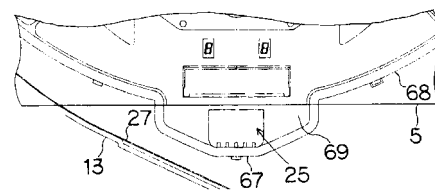
【図 12】



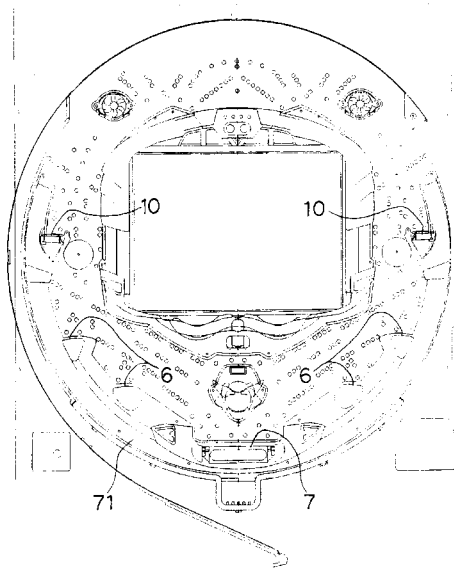
【図 11】



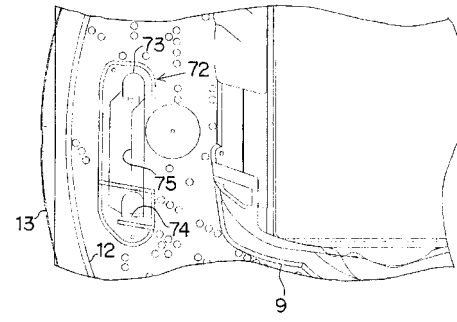
【図 13】



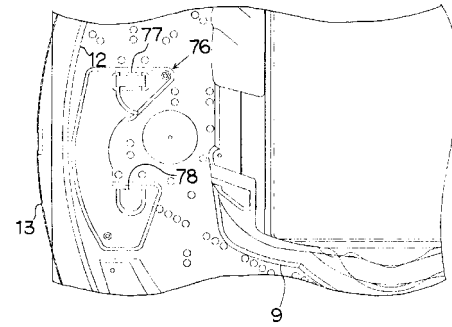
【図 14】



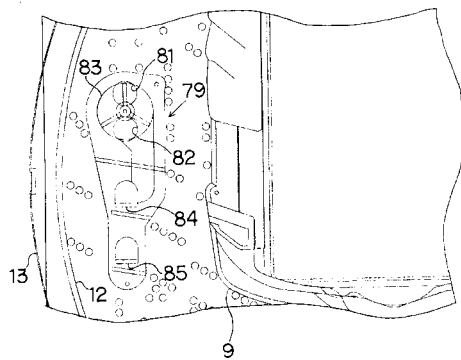
【図 15】



【図 16】



【図 17】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平 1 0 - 1 6 5 5 7 4 (J P , A)
実開昭 5 9 - 0 1 4 6 8 9 (J P , U)
特開平 0 9 - 0 0 0 6 9 6 (J P , A)
実開昭 6 2 - 0 3 6 7 7 5 (J P , U)
特開平 0 9 - 2 0 1 4 5 6 (J P , A)
特開平 1 1 - 3 3 3 1 1 0 (J P , A)
実開平 1 0 - 0 0 0 0 4 9 (J P , U)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)

A63F 7/02